

## ファイルサーバーリソースマネージャ

本章では、ファイルサーバーリソースマネージャに関して説明しています。  
ファイルサーバーリソースマネージャは以下の3つの機能に分けられます。

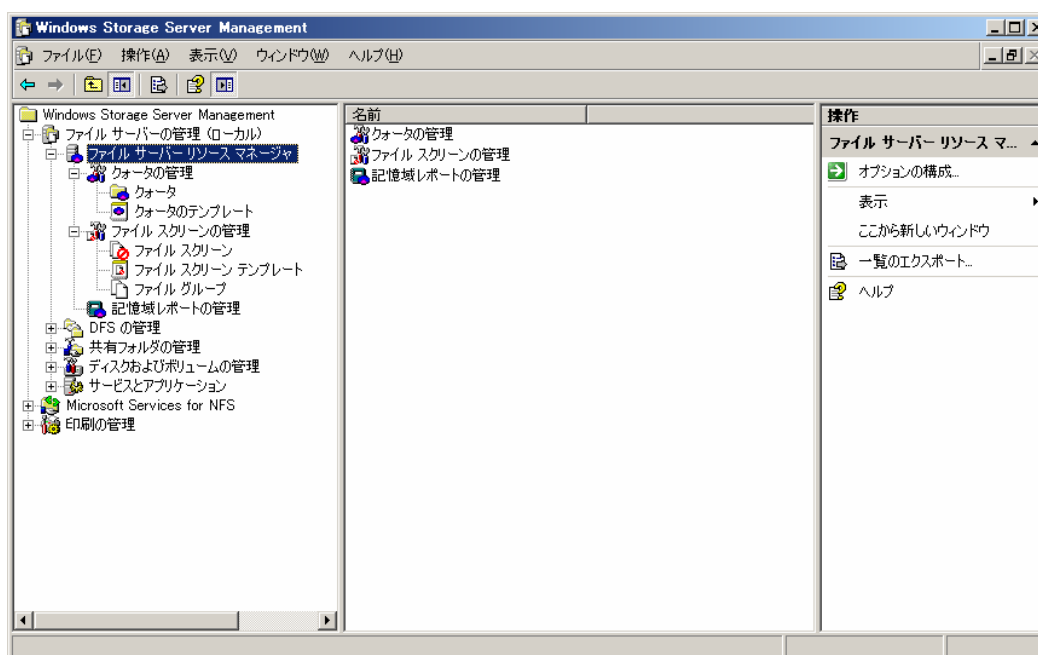
- **クォータ機能**  
iStorage NS上の記憶域に対する領域の制限、監視を行ないます。
- **ファイルスクリーン機能**  
iStorage NS上の記憶域に保管するファイルの種類制限、監視を行ないます。
- **記憶域レポート機能**  
iStorage NS上の記憶域使用状況などのレポートを生成します。

これらの機能は、相互に関連しており、iStorage NS 上の記憶域の資源を有効に活用するために、保管するファイルや領域の管理、およびその分析を行ない、結果をフィードバックすることで、更に記憶域の有効活用を図ることに役立てることができます。

## 6.1 ファイルサーバーリソースマネージャ

### 6.1.1 オプションの構成

クォータの管理、ファイルスクリーンの管理、記憶域レポートの管理で使用するオプション項目を設定します。

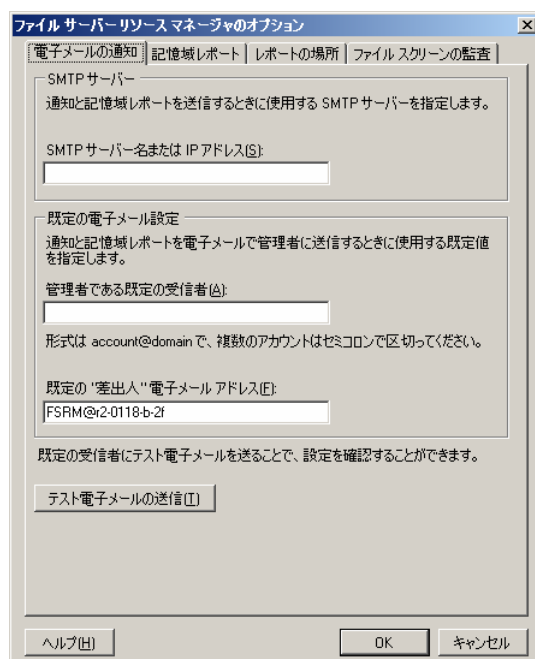


#### 6.1.1.1 電子メールの通知

クォータの管理、ファイルスクリーンの管理での設定内容が動作した場合、また記憶域レポートでレポートを出力した場合に管理者または操作者に電子メールにて通知を行なう場合に利用します。

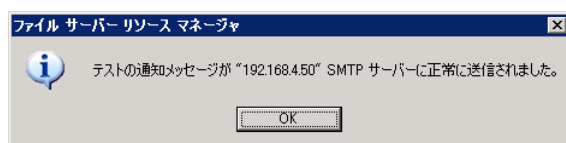
設定には、次の操作を行ないます。

1. Windows Storage Server Management から[ファイルサーバーの管理]→[ファイルサーバーリソースマネージャ]をクリックします。
2. 操作の一覧で[オプションの構成] をクリックし[ファイルサーバーリソースマネージャのオプション]画面を表示します。



項目	説明
SMTPサーバー名またはIPアドレス	電子メールサーバーのアドレスを名前またはIPアドレスで指定します。
管理者である既定の受信者	既定となる受信者を指定します。
既定の"差出人"電子メールアドレス	電子メール送信時の送信者となる電子メールアドレスを指定します。
テスト電子メールの送信	設定が正しく行なわれているか、テストを実施します。

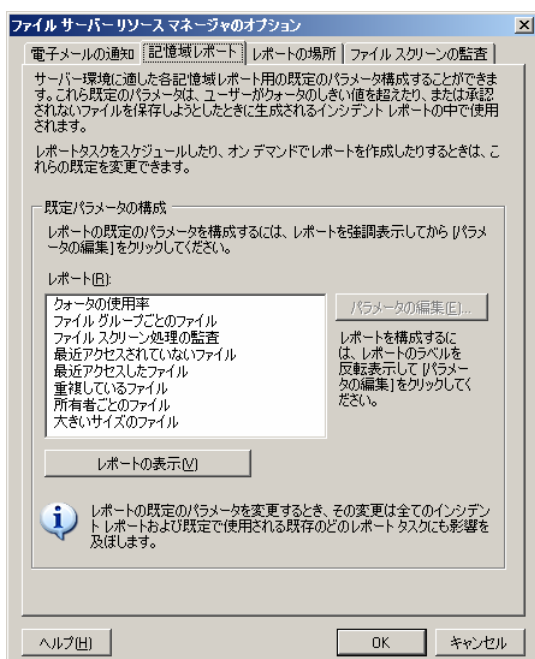
3. [電子メールの通知]-[テスト電子メールの送信]ボタンで設定した宛先にテスト電子メールを送信します。問題なく送信出来た場合、以下の画面が表示されます。



### 6.1.1.2 記憶域レポート

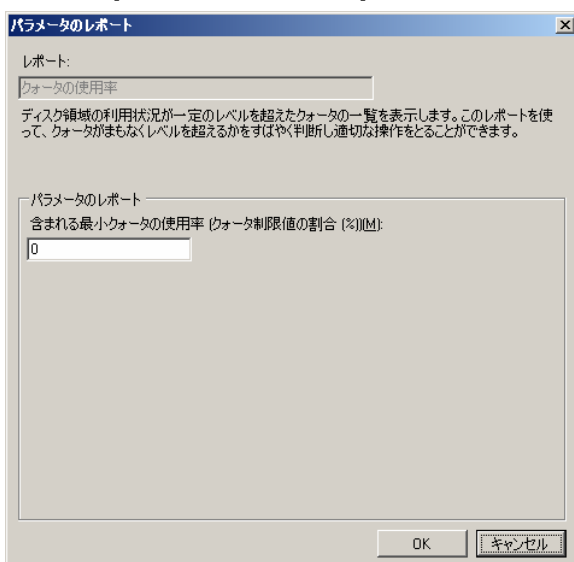
記憶域レポートの管理で、レポートを出力する際に使用する既定のパラメータを設定する場合に利用します。設定には、次の操作を行いません。

1. Windows Storage Server Management から[ファイルサーバーの管理]→[ファイルサーバーリソースマネージャ]をクリックします。
2. 操作の一覧で[オプションの構成] をクリックし[ファイルサーバーリソースマネージャのオプション]画面を表示します。



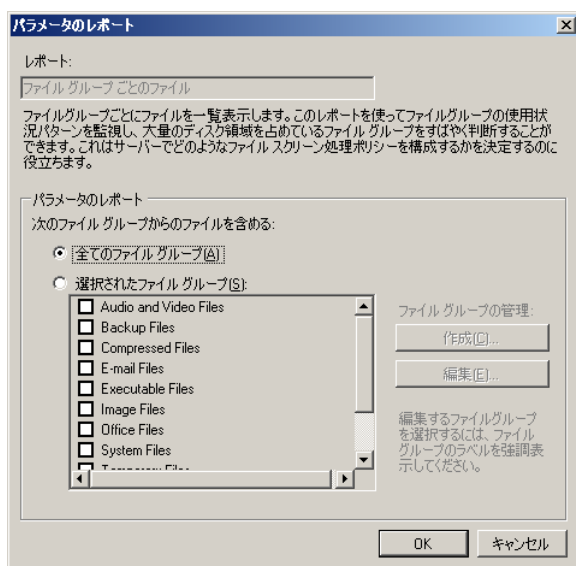
項目	説明
レポート	各レポートが表示されます。
パラメータの編集	[レポート]項目で指定したレポートのパラメータ編集画面が表示されます。
レポートの表示	設定したレポートの内容が表示されます。

3. [記憶域レポート]-[レポート]項目で“クォータの使用率”を選択後、[パラメータの編集]ボタンをクリックし[パラメータのレポート]画面を表示します。



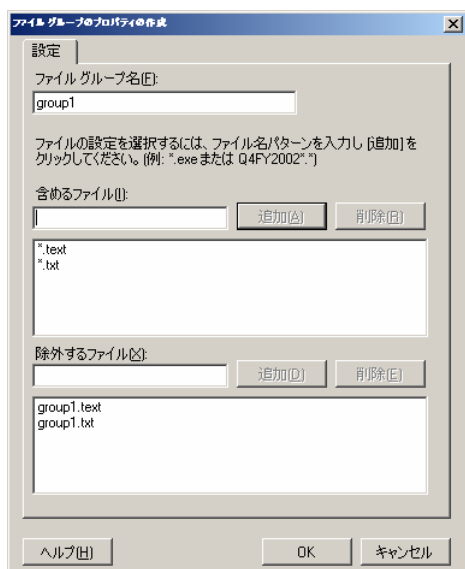
項目	説明
含まれる最小クォータの使用率	レポート表示対象とするディスク領域の使用率を設定します。

4. [記憶域レポート]-[レポート]項目で“ファイルグループごとのファイル”を選択後、[パラメータの編集]ボタンをクリックし[パラメータのレポート]画面を表示します。



項 目	説 明
次のファイルグループからのファイルを含める	[全てのファイルグループ]もしくは[選択されたファイルグループ]のどちらかを選択
選択されたファイルグループ	配下の一覧より項目を選択
作成ボタン	[選択されたファイルグループ]項目の一覧へグループを新規作成します。
編集ボタン	[選択されたファイルグループ]項目の一覧で指定したグループのパラメータ編集画面が表示されます。

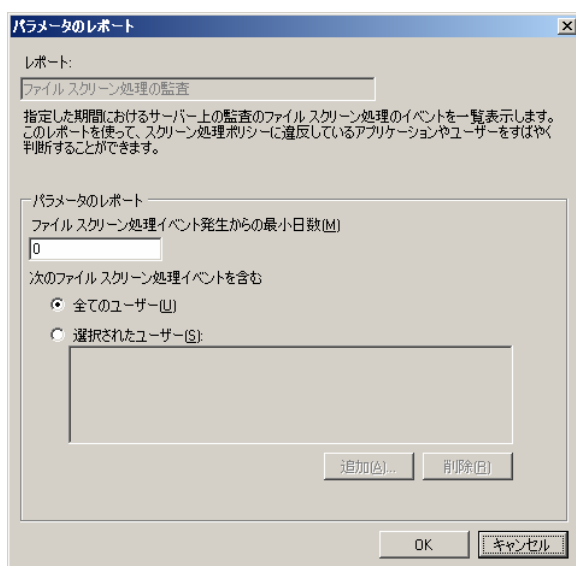
- 4-1. [次のファイルグループからのファイルを含める]項目で対象とするファイルを選択します。  
 4-1-1. 新しくファイルグループを作成する場合[作成]ボタンを、既に作成済みのファイルグループを編集する場合は[編集]ボタンをクリックし画面を表示します。



## ファイルサーバーリソースマネージャ

項目	説明
ファイルグループ名	作成するファイルグループ名を設定します。
含めるファイル	書き込みさせないファイルを指定します。 ファイル指定は、名前、または拡張子、あるいはその両方でスクリーニングできます。例えば拡張子 *.mp3 を指定すると、すべてのmp3ファイルがスクリーニングされ、書き込みできないようにブロックされます。 グループに含めるファイルを入力し、[追加]ボタンをクリックすることにより一覧へ追加します。また削除する場合は一覧より選択し、[削除]ボタンをクリックします。
除外するファイル	“含めるファイル”にて設定しているファイルに対し、その一部を許可したい場合に指定します。 例えば、“許可しないファイル”で、*.mp3と指定し、“許可するファイル”で、test.mp3と指定した場合、test.mp3だけは、書き込み等が許可されます。 グループから除外するファイルを入力し、[追加]ボタンをクリックすることにより一覧へ追加します。また削除する場合は一覧より選択し、[削除]ボタンをクリックします。

5. [記憶域レポート]-[レポート]項目で“ファイルスクリーン処理の監査”を選択後、[パラメータの編集]ボタンをクリックし[パラメータのレポート]画面を表示します。

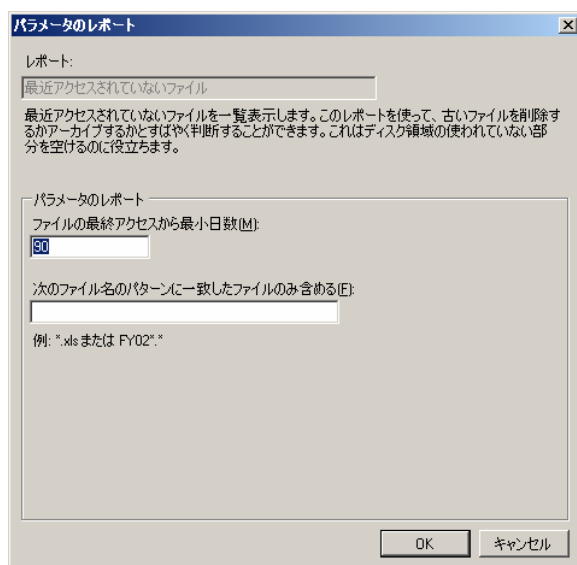


項目	説明
ファイルスクリーン処理イベント発生からの最小日数	ファイルスクリーン処理イベントが発生した日から何日目からを対象とするか設定します。

## ファイルサーバーリソースマネージャ

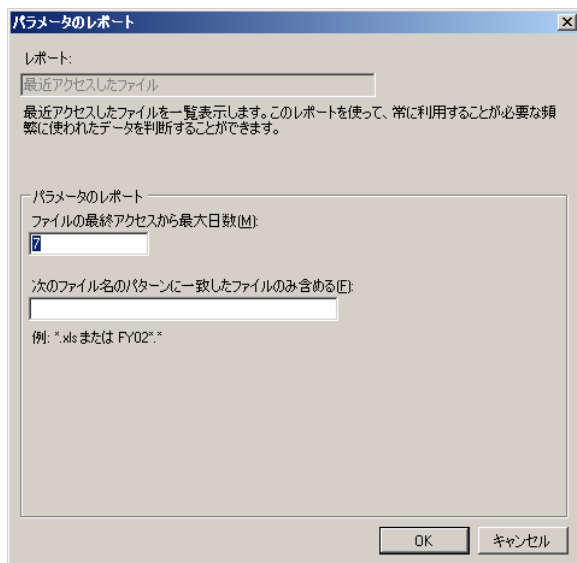
項目	説明
次のファイルスクリーン処理イベントを含む	[全てのファイルグループ]もしくは[選択されたファイルグループ]のどちらかを選択
選択されたユーザー	[追加]ボタンで対象ユーザーを追加、[削除]ボタンで対象ユーザーを削除します。

6. [記憶域レポート]-[レポート]項目で“最近アクセスされていないファイル”を選択後、[パラメータの編集]ボタンをクリックし[パラメータのレポート]画面を表示します。



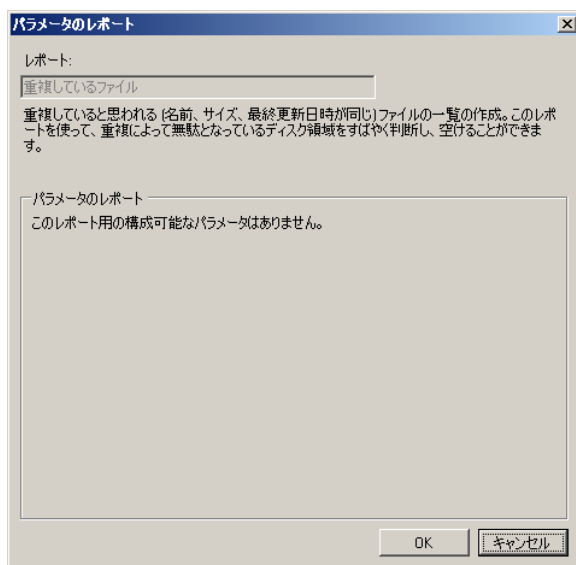
項目	説明
ファイルの最終アクセスから最小日数	レポートに含める、ファイルの最終アクセス日からの最小日数を指定します。
次のファイル名のパターンに一致したファイルのみ含める	対象とするファイルのパターンがあれば指定します。

7. [記憶域レポート]-[レポート]項目で“最近アクセスしたファイル”を選択後、[パラメータの編集]ボタンをクリックし[パラメータのレポート]画面を表示します。



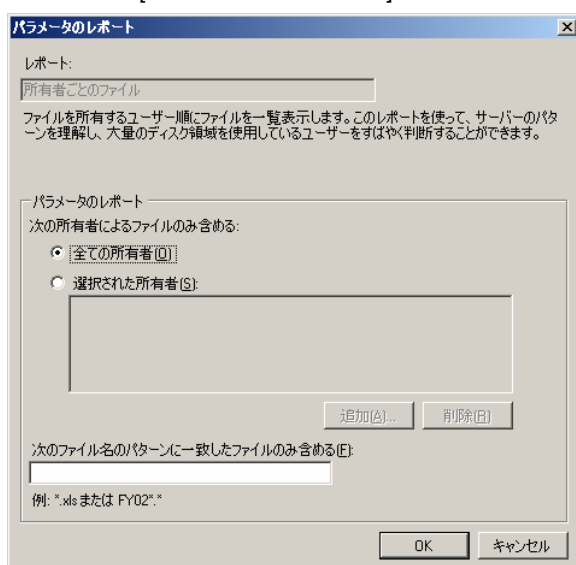
項目	説明
ファイルの最終アクセスから最大日数	レポートに含める、ファイルの最終アクセス日からの最大日数を指定します。
次のファイル名のパターンに一致したファイルのみ含める	対象とするファイルのパターンがあれば指定します。

8. [記憶域レポート]-[レポート]項目で“重複しているファイル”を選択後、[パラメータの編集]ボタンをクリックし[パラメータのレポート]画面を表示します。この項目にパラメータはありません。



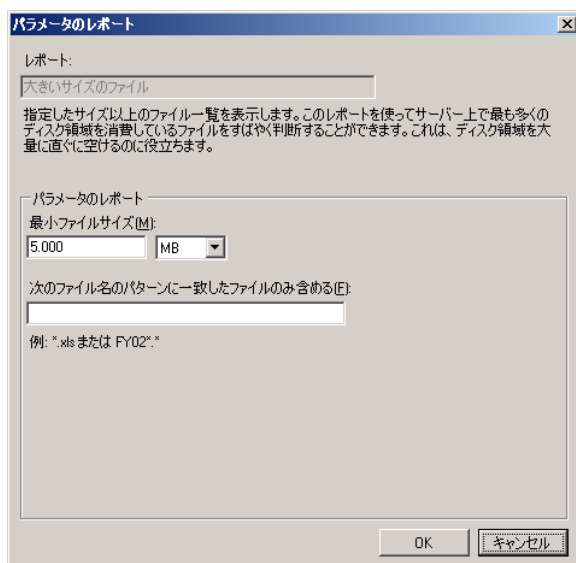


9. [記憶域レポート]-[レポート]項目で“所有者ごとのファイル”を選択後、[パラメータの編集]ボタンをクリックし[パラメータのレポート]画面を表示します。



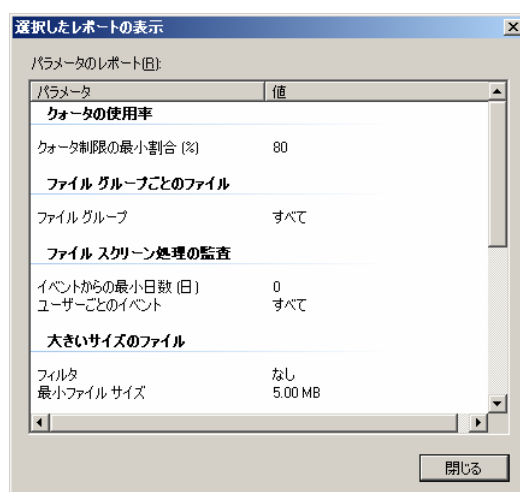
項目	説明
次の所有者によるファイルのみ含める	[全ての所有者]もしくは[選択された所有者]のどちらかを選択します。
選択された所有者	[追加]ボタンで対象ユーザーを追加、[削除]ボタンで対象ユーザーを削除します。
次のファイル名のパターンに一致したファイルのみ含める	対象とするファイルのパターンがあれば指定します。

10. [記憶域レポート]-[レポート]項目で“大きいサイズのファイル”を選択後、[パラメータの編集]ボタンをクリックし[パラメータのレポート]画面を表示します。



項目	説明
最小ファイルサイズ	レポートの対象とする最小のファイルサイズを指定します。
次のファイル名のパターンに一致したファイルのみ含める	対象とするファイルのパターンがあれば指定します。

11. [記憶域レポート]-[レポートの表示]ボタンにて[記憶域レポート]-[レポート]項目で設定したファイル表示内容を確認します。

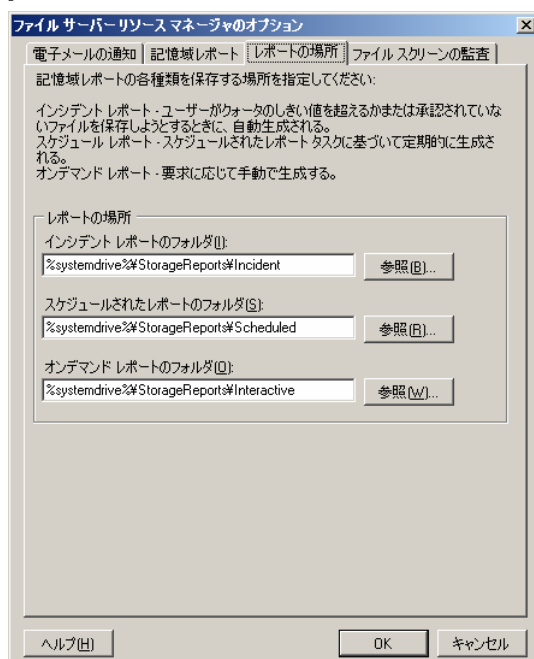


### 6.1.1.3 レポートの場所

記憶域レポートの管理の各レポートを保存するフォルダを設定する場合に利用します。

設定には、次の操作を行ないます。

1. Windows Storage Server Management から[ファイルサーバーの管理]→[ファイルサーバーリソースマネージャ]をクリックします。
2. 操作の一覧で[オプションの構成] をクリックし[ファイルサーバーリソースマネージャのオプション]画面を表示します。

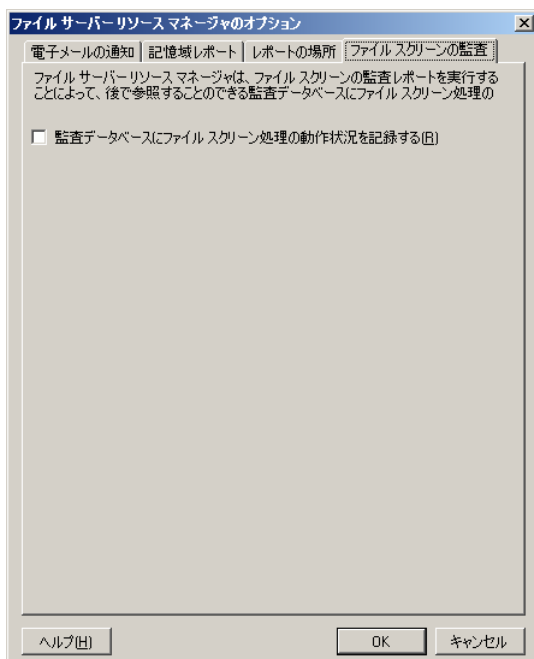


項目	説明
インシデントレポートのフォルダ	クォータのしきい値を超えた場合、または未承認のファイルを保存する場合に生成されるレポートのフォルダを指定します。
スケジュールされたレポートのフォルダ	スケジュールされたレポートタスクに基づいて生成されるレポートのフォルダを指定します。
オンデマンドレポートのフォルダ	手動で生成されるレポートのフォルダを指定します。

### 6.1.1.4 ファイルスクリーンの監査

ファイルスクリーンの管理で監査データベースにスクリーン処理の動作状況を設定する場合に利用します。設定には、次の操作を行ないます。

1. **Windows Storage Server Management** から[ファイルサーバーの管理]→[ファイルサーバーリソースマネージャ]をクリックします。
2. 操作の一覧で[オプションの構成] をクリックし[ファイルサーバーリソースマネージャのオプション]画面を表示します。



項 目	説 明
監査データベースにファイルスクリーン処理の動作状況を記録する	監査データベースにファイルスクリーン処理の動作を記録します。ファイルスクリーンにて[ファイルスクリーン処理の監査]レポートを表示するためには、監査データベースにファイルスクリーン処理の動作状況を記録する必要があります。


## 6.2 クォータの管理


クォータの管理は、設定以上のファイルが iStorage NS に保存されないよう抑止することや、現在のフォルダの使用率等を確認するための機能です。


iStorage NS 上の選択したディレクトリ、パーティションに対する領域を制限することができます。

クォータ管理で設定できる項目には、次の機能があります。

機 能
ディレクトリ上での領域の制限機能
任意のしきい値による警告通知機能
電子メールによるメッセージ通知機能
イベントログへのメッセージ通知機能
通知がアクティブなときのレポート通知機能
通知がアクティブなときのカスタム スクリプトの実行機能

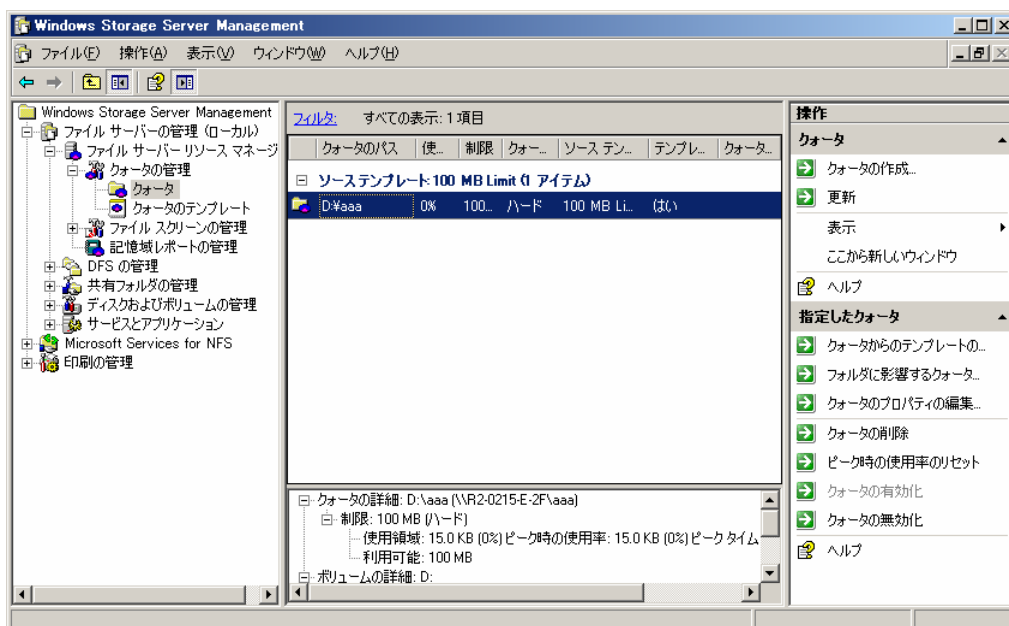
 エクスプローラで確認可能なディスク使用サイズと、クォータ画面で確認可能な使用領域サイズが異なる場合があります。これはエクスプローラが表示するファイルサイズは実データのファイルサイズを表示しますが、クォータが表示するサイズにはファイルのメタ情報（ファイル名やセキュリティ情報等）も含まれるため、エクスプローラとディレクトリクォータが表示するサイズには違いがあります。なお、ファイルのメタ情報 には 最低 1KB の領域を使用します。また、データが約 700Bytes 以下のファイルは、上記の 1kB の領域にデータが含まれる場合があります。

 システム パーティションにディレクトリ クォータを設定する場合、“ドライブ直下” 及び “WINDOWS フォルダ配下” へはファイル 監視のみを行うパッシブ スクリーン の設定のみ可能です。

 ファイル セキュリティの代わりにディレクトリ クォータを使用することはできません。ディレクトリ クォータは、ディスク領域の使用を管理するためだけに使用し、ユーザーがパーティションやディレクトリに書き込むことを防止するために使用しないでください。ユーザーがディレクトリに書き込めないようにする場合は、そのディレクトリに適切な保護を設定してください。

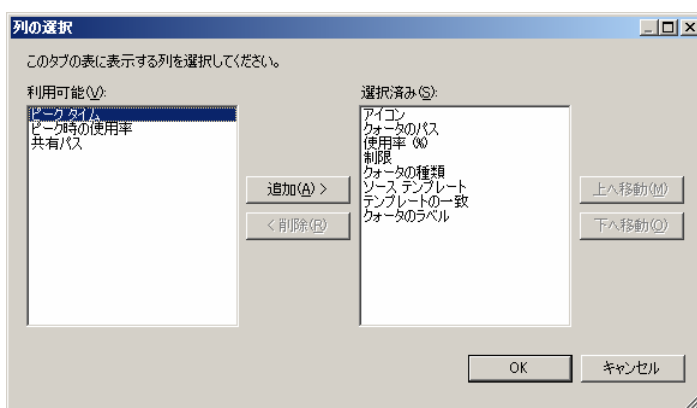
## 6.2.1 クォータ

クォータにより、iStorage NS 上の選択したディレクトリ、またはパーティションに対する領域を実際に制限、監視します。



クォータ画面で表示される項目一覧は次の通りです。

なお、項目一覧は一覧を右クリックし表示されるポップアップメニューより「列の追加と削除」で表示される画面にて追加/削除が可能です。



項目	説明
アイコン	アイコンが表示されます。指定したフォルダのみを対象とする場合とサブフォルダを含め対象とする場合で異なります。
クォータのパス	クォータを設定しているフォルダのパスが表示されます。
使用率	使用されている領域の容量がパーセント形式で表示されます。
制限	設定されているディレクトリ領域の制限値が表示されます。

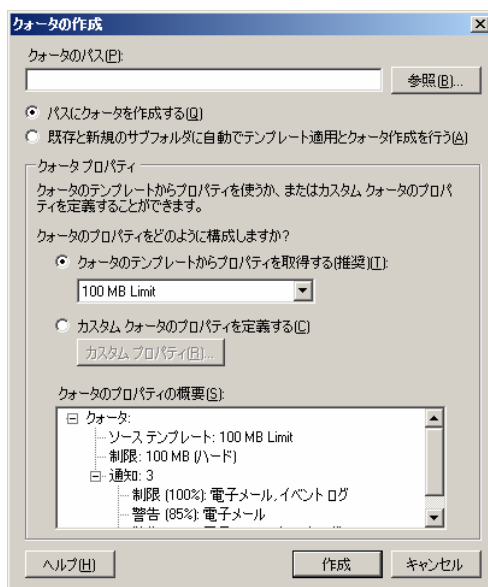
項目	説明
クォータの種類	領域を超える設定は不可能なハードクォータ・領域を超える設定が可能なソフトクォータのどちらが選択されているかが表示されます。
ソーステンプレート	クォータのテンプレートを使用している場合、テンプレート名が表示されます。
テンプレートの一致	クォータのテンプレートをカスタマイズせず使用しているかが表示されます。
クォータのラベル	クォータに設定しているラベルが表示されます。
ピークタイム	このディレクトリで使用された領域の最大容量の日時が表示されます。
ピーク時の使用率	このディレクトリで使用された領域の最大容量が表示されます。
共有パス	クォータのパスに設定された共有フォルダ名が表示されます。

また、任意の列（項目）をクリックすることで、ソートすることも可能です。

### 6.2.1.1 クォータの作成

指定するフォルダやその配下のサブフォルダに対しクォータを作成するには、次の操作を行ないます。

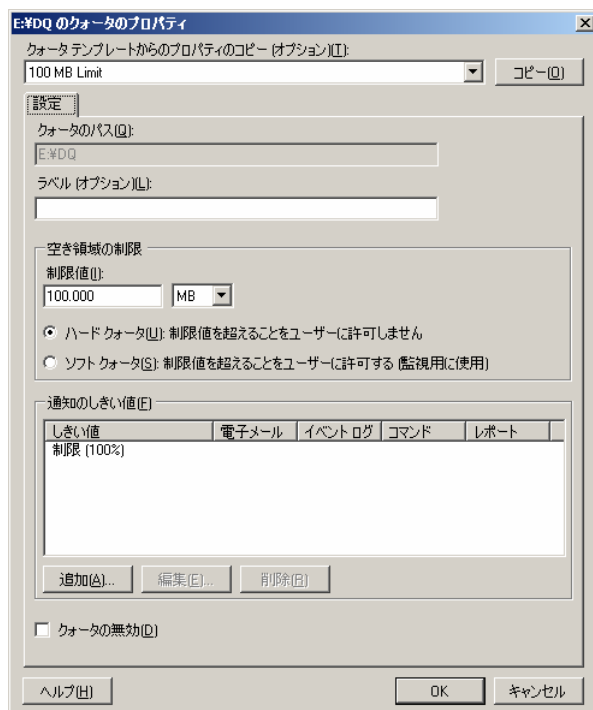
1. Windows Storage Server Management から[ファイルサーバーの管理]→[ファイルサーバーリソースマネージャ]→[クォータの管理]→[クォータ]をクリックします。
2. 操作の一覧で[クォータの作成] をクリックします。



項目	説明
クォータのパス	クォータを設定するフォルダのフルパスを設定します。
パスにクォータを作成する	“クォータのパス”項目で指定したフォルダに対しクォータを設定します。

項目	説明
既存と新規のサブフォルダに自動でテンプレート適用とクォータ作成を行なう	“クォータのパス”項目で指定したフォルダのサブフォルダに対しクォータを設定します。
クォータのプロパティをどのように構成しますか?	“クォータのテンプレートからプロパティを取得する”および“カスタムクォータのプロパティを定義する”から選択します。
クォータのテンプレートからプロパティを取得する	配下の一覧より項目を選択します。
カスタムクォータのプロパティを定義する	[カスタムプロパティ]ボタンをクリックし、設定を行ないます。
クォータのプロパティの概要	設定されたプロパティが表示されます。
[作成]ボタン	上記項目にて設定した条件でクォータを作成します。

3. [クォータプロパティ]項目で[クォータのテンプレートからプロパティを取得する]もしくは[カスタムクォータのプロパティを定義する]を選択します。
- 3-1. [クォータのテンプレートからプロパティを取得する]を選択する場合、リストに表示されるテンプレート一覧から選択し[作成]ボタンをクリックするとクォータを作成します。
- 3-2. [カスタムクォータのプロパティを定義する]を選択する場合、[カスタムプロパティ]ボタンをクリックし、[クォータのプロパティ]画面を表示します。





項目	説明
クォータテンプレートからのプロパティのコピー	テンプレート一覧より選択し[コピー]ボタンをクリックすると選択したテンプレートの設定が[設定]タブの設定内容にコピーされます。
ラベル	ラベルを設定します。
制限値	制限値を設定します。
ハードクォータ	設定値を超えてファイルを書き込むことは不可能と設定します。
ソフトクォータ	設定値を超えてもファイル書き込みが可能と設定します。
通知のしきい値	しきい値の設定内容が表示されます。デフォルトでは制限[100%]のみが設定されています。
[追加]ボタン	しきい値を追加します。
[編集]ボタン	選択した既存のしきい値を編集します。
[削除]ボタン	選択したしきい値を削除します。
クォータの無効	クォータを無効とする場合、チェックします。

3-2-1. しきい値を新規に作成する場合、[追加]ボタンを、既に作成済みのしきい値を編集する場合は[編集]ボタンをクリックし画面を表示します。

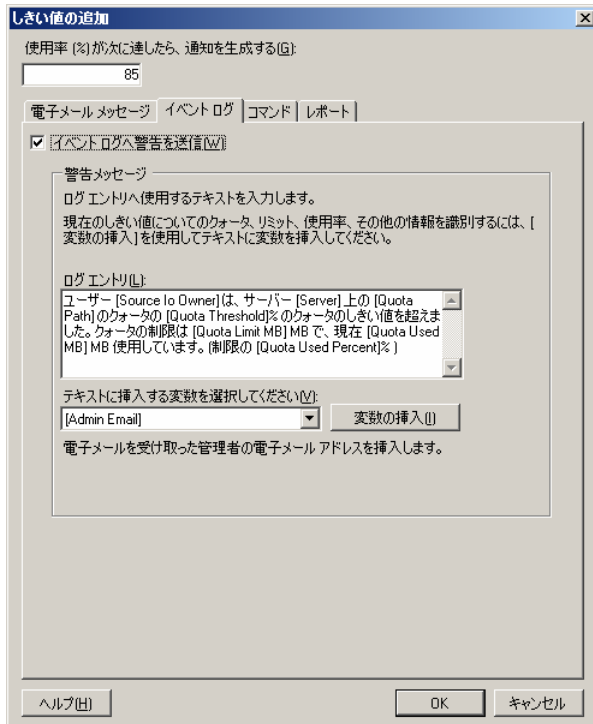
3-2-1-1. [電子メールメッセージ]項目で警告メッセージを電子メールで送信するかを設定します。

項 目	説 明
使用率(%)が次に達したら、通知を生成する	しきい値をパーセントで設定します。 <b>本項目は[編集]時に使用率100%の設定を変更時は、設定できません。</b>
次の管理者に電子メールを送信する	管理者に電子メールを送信する場合に設定します。その場合、配下の入力フィールドにメールアドレスを設定します。
しきい値を超えたユーザーに電子メールを送信する	ドメイン環境でご利用の場合、 <b>Active Directory</b> へ登録している電子メールアドレスへ電子メールを送信する際に設定します。
件名	電子メールのタイトルを設定します。
メッセージ本文	電子メールの本文を設定します。
テキストに挿入する変数を選択してください	リストに表示される変数を[変数の挿入]ボタンで[管理者の電子メールアドレス]入力フィールド、[件名]、[メッセージ本文]の項目に設定します。
追加電子メールヘッダー	電子メールのヘッダーを変更する場合、設定します。

3-2-1-1-1. [電子メールメッセージ]-[追加電子メールヘッダー]ボタンで[追加電子メールヘッダー]画面を表示します。

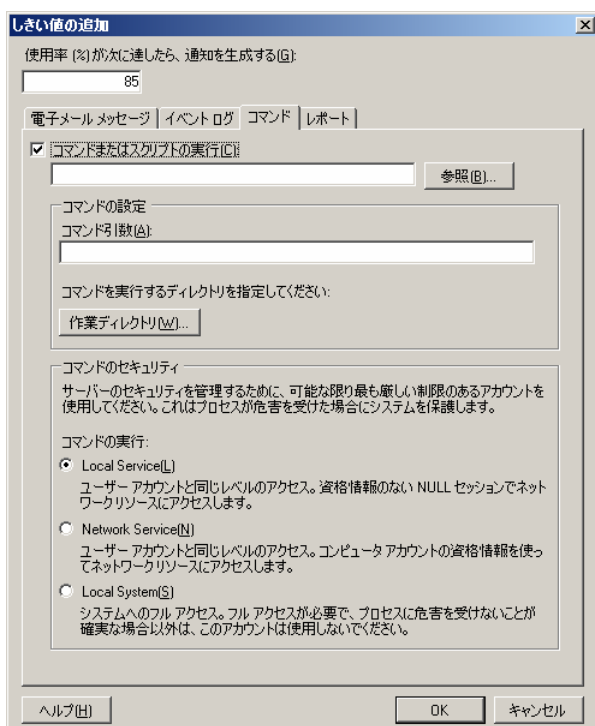
項 目	説 明
差出人	差出人の電子メールアドレスをを設定します。
Cc	Ccで送信する電子メールアドレスをを設定します。
Bcc	Bccで送信する電子メールアドレスをを設定します。
返信先	返信先の電子メールアドレスをを設定します。
テキストに挿入する変数を選択してください	リストに表示される変数を[変数の挿入]ボタンで上記の設定項目に設定します。

3-2-1-2. [イベントログ]-[イベントログへ警告を送信]項目で警告メッセージをイベントログ(アプリケーション)へ警告メッセージを表示するかを設定します。



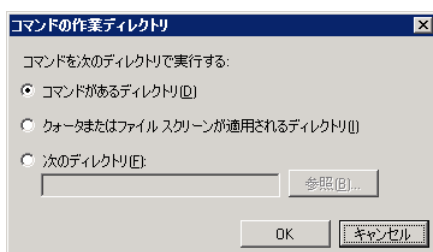
項目	説明
イベントログへ警告を送信	イベントログへ警告メッセージを送信する場合に設定します。
ログエントリ	警告メッセージで表示する内容を設定します。
テキストに挿入する変数を選択してください	リストに表示される変数を[変数の挿入]ボタンで上記の設定項目に設定します。

3-2-1-3. [コマンド]-[コマンドまたはスクリプトの実行]項目でクォータが動作した際、コマンドを実行するかを設定します。実行する場合、コマンドへのフルパスを設定します。



項目	説明
コマンドまたはスクリプトの実行	実行するコマンド、スクリプトを設定します。
コマンド引数	コマンドに引数がある場合、設定します。
[作業ディレクトリ]ボタン	作業ディレクトリを指定する画面を表示します。
コマンドの実行	セキュリティレベルを設定します。 Local Service, Network Service, Local Systemから選択します。

3-2-1-3-1. [コマンド]-[作業ディレクトリ]ボタンをクリックし表示される[コマンドの作業ディレクトリ]画面で作業フォルダを設定します。



📖 "コマンドがあるディレクトリ"以外を選択しコマンドを実行する場合は環境変数で予め対象フォルダへのパスを設定する必要があります。

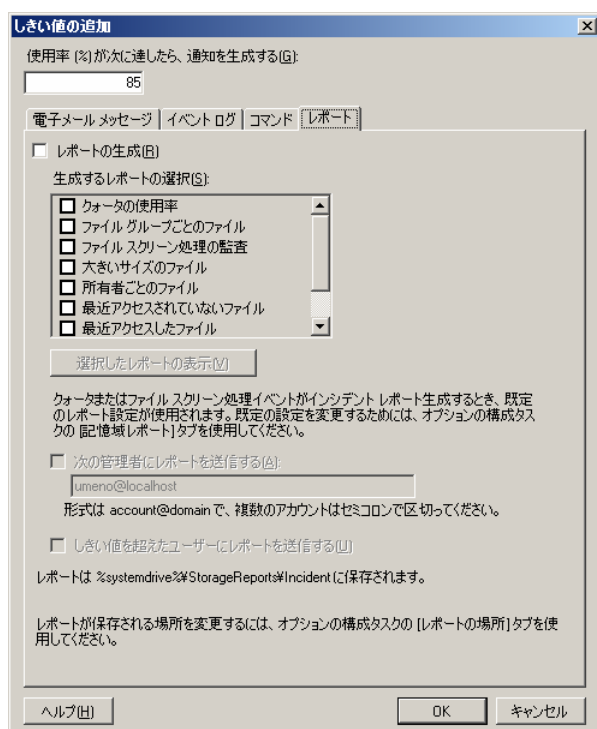
3-2-1-3-2. [コマンド]-[コマンドのセキュリティ]では実行コマンドのセキュリティレベルを以下の 3 点より選択し設定します。

- ・ Local Service
- ・ Network Service
- ・ Local System



”Local Service”及び”Network Service”を選択する場合、対象フォルダのアクセス権に Users グループ”ファイルの作成/データの書き込み”権限が設定されているとセキュリティ上、動作しません。また”書き込み”以上の権限を設定した場合も同様です。それぞれに対応する”Local Service”アカウント、”Network Service”アカウントをご利用することを推奨します。

3-2-1-4. [レポート]-[レポートの生成]項目でクォータが動作した際、レポートを作成するかを設定します。作成する場合、生成するレポートを設定します。



項 目	説 明
レポートの生成	レポートを生成する場合に設定します。その場合、配下の[生成するレポートの選択]項目で生成するレポートを選択します。
[選択したレポートの表示] ボタン	[生成するレポートの選択]項目で選択したレポートを表示します。

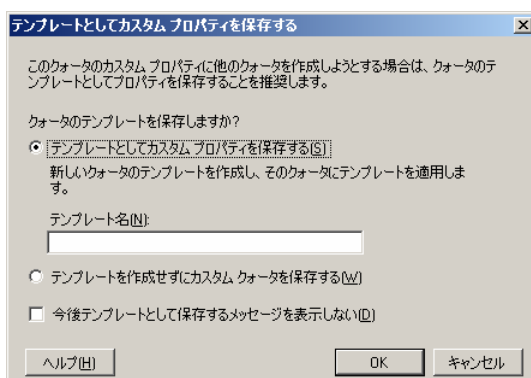
項目	説明
次の管理者にレポートを送信する	管理者に電子メールでレポートを送信する場合に設定します。その場合、配下の入力フィールドにメールアドレスを設定します。
しきい値を超えたユーザーにレポートを送信する	ドメイン環境でご利用の場合、Active Directoryへ登録している電子メールアドレスへ電子メールを送信する際に設定します。

3-2-1-5. 設定が全て完了したら[OK]ボタンをクリックし[クォータのプロパティ]画面に戻ります。

3-2-2. 既存のしきい値を削除する場合、[設定]-[通知のしきい値]-[削除]ボタンをクリックし、しきい値を削除します。

3-2-3. 作成したクォータを無効として登録する場合、[設定]-[クォータの無効]項目を設定します。

3-2-4. 設定が全て完了し[作成]ボタンをクリックするとクォータを作成します。[テンプレートとしてカスタムプロパティを保存する]画面が表示され、テンプレートとして保存するか選択します。



項目	説明
テンプレートとしてカスタムプロパティを保存する	設定した内容をテンプレートとして登録する場合、テンプレート名と共に設定します。
テンプレートを作成せずにカスタムクォータを保存する	設定した内容はテンプレートとして登録されず、今回作成したクォータにのみ設定されます。
今後テンプレートとして保存するメッセージを表示しない	本画面を今後、表示しない場合、設定します。


### 6.2.1.2 更新

作成したクォータ一覧表示の情報を更新し最新の状態へするには、次の操作を行ないます。

1. Windows Storage Server Management から[ファイルサーバーの管理]→[ファイルサーバーリソースマネージャ]→[クォータの管理]→[クォータ]をクリックします。
2. 操作の一覧で[更新] をクリックします。

### 6.2.1.3 クォータからのテンプレートの作成

選択中のクォータからテンプレートを作成するには、次の操作を行ないます。

 クォータの作成にて"既存と新規のサブフォルダに自動でテンプレート適用とクォータ作成を行なう"を選択しクォータを作成した場合、本項目は使用できません。

1. Windows Storage Server Management から[ファイルサーバーの管理]→[ファイルサーバーリソースマネージャ]→[クォータの管理]→[クォータ]をクリックします。
2. 操作の一覧で[クォータからのテンプレートの作成] をクリックし[クォータテンプレートの作成]画面を表示します。

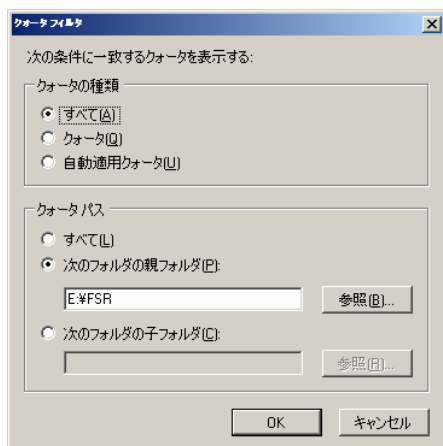
項目	説明
クォータテンプレートからのプロパティのコピー	テンプレート一覧より選択し[コピー]ボタンをクリックすると選択したテンプレートの設定が[設定]タブの設定内容にコピーされます。
テンプレート名	テンプレート名を設定します。
ラベル	ラベルを設定します。
制限値	制限値を設定します。
ハードクォータ	設定値を超えてファイルを書き込むことは不可能と設定します。
ソフトクォータ	設定値を超えてもファイル書き込みが可能と設定します。
通知のしきい値	しきい値の設定内容が表示されます。
[追加]ボタン	しきい値を追加します。
[編集]ボタン	選択した既存のしきい値を編集します。
[削除]ボタン	選択したしきい値を削除します。

3. [設定]-[テンプレート名]項目で作成するテンプレートを設定し、[OK]ボタンをクリックします。  
なお、選択したクォータテンプレートに変更を加えてテンプレートを作成する事も可能です。

#### 6.2.1.4 フォルダに影響するクォータの表示

選択中のクォータのフォルダに影響するクォータ一覧を表示するには、次の操作を行ないます。

1. Windows Storage Server Management から[ファイルサーバーの管理]→[ファイルサーバーリソースマネージャ]→[クォータの管理]→[クォータ]をクリックします。
2. 操作の一覧で[フォルダに影響するクォータの表示] をクリックします。
3. 全てのクォータ一覧表示へ戻す場合、クォータ一覧画面の上部にある[フィルタ]項目をクリックし、[クォータフィルタ]画面を表示し[クォータパス]項目で“すべて”を選択します。



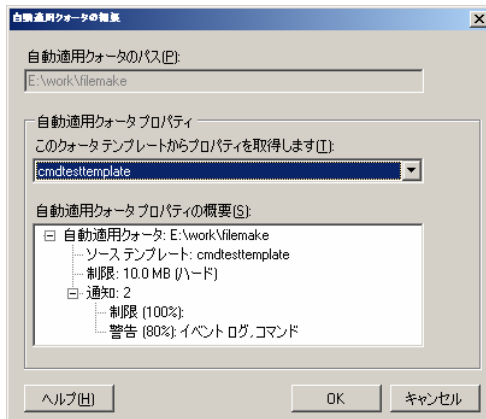
項 目	説 明
クォータの種類	一覧へ表示するクォータの種類を指定します。 “すべて”、“クォータ”、“自動適用クォータ”から選択します。
クォータパス	一覧へ表示するクォータのパスを指定します。 “すべて”、“次のフォルダの親フォルダ”、“次のフォルダの子フォルダ”から選択します。

#### 6.2.1.5 クォータのプロパティの編集

選択中のクォータのプロパティを編集するには、次の操作を行ないます。

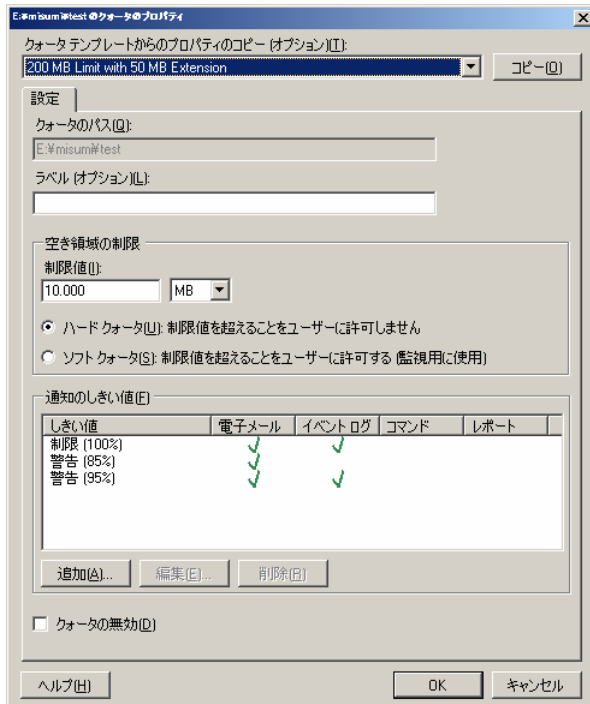
1. Windows Storage Server Management から[ファイルサーバーの管理]→[ファイルサーバーリソースマネージャ]→[クォータの管理]→[クォータ]をクリックします。
2. 操作の一覧で[クォータのプロパティの編集] をクリックします。
- 2-1. クォータの作成にて"既存と新規のサブフォルダに自動でテンプレート適用とクォータ作成を行なう"を選択しクォータを作成した場合、以下の画面が表示されますので設定後[OK]ボタンをクリックすると編集が反映されます。





項目	説明
自動適用クォータプロパティ	テンプレート一覧より選択し[OK]ボタンをクリックすると選択したテンプレートの設定が反映されます。

2-2. クォータの作成等にて"パスにクォータを作成する"を選択しクォータを作成した場合、以下の画面が表示されます。以下の画面が表示されますので設定後[OK]ボタンをクリックすると編集が反映されます。



### 6.2.1.6 クォータの削除

選択中のクォータを削除するには、次の操作を行ないます。

1. Windows Storage Server Management から[ファイルサーバーの管理]→[ファイルサーバーリソースマネージャ]→[クォータの管理]→[クォータ]をクリックします。
2. 操作の一覧で[クォータの削除] をクリックします。

### 6.2.1.7 ピーク時の使用率のリセット

選択中のクォータの“ピーク時の使用率”をリセットし現在の値に戻すには、次の操作を行ないます。



クォータの作成にて"既存と新規のサブフォルダに自動でテンプレート適用とクォータ作成を行なう"を選択しクォータを作成した場合、本項目は使用できません。

1. Windows Storage Server Management から[ファイルサーバーの管理]→[ファイルサーバーリソースマネージャ]→[クォータの管理]→[クォータ]をクリックします。
2. 操作の一覧で[ピーク時の使用率のリセット] をクリックします。

### 6.2.1.8 クォータの有効化

選択中の無効化しているクォータを有効化するには、次の操作を行ないます。



クォータの作成にて"既存と新規のサブフォルダに自動でテンプレート適用とクォータ作成を行なう"を選択しクォータを作成した場合、本項目は使用できません。

1. Windows Storage Server Management から[ファイルサーバーの管理]→[ファイルサーバーリソースマネージャ]→[クォータの管理]→[クォータ]をクリックします。
2. 操作の一覧で[有効化] をクリックします。

### 6.2.1.9 クォータの無効化

選択中の有効化しているクォータを無効化するには、次の操作を行ないます。



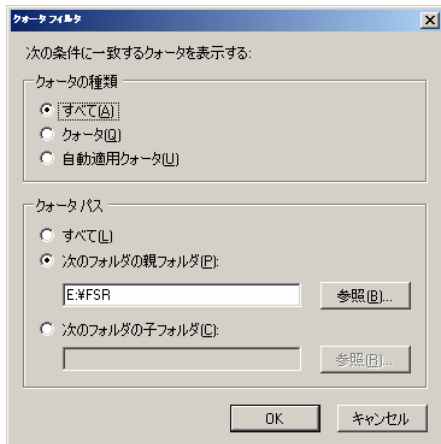
クォータの作成にて"既存と新規のサブフォルダに自動でテンプレート適用とクォータ作成を行なう"を選択しクォータを作成した場合、本項目は使用できません。

1. Windows Storage Server Management から[ファイルサーバーの管理]→[ファイルサーバーリソースマネージャ]→[クォータの管理]→[クォータ]をクリックします。
2. 操作の一覧で[無効化] をクリックします。

### 6.2.1.10 フィルタ

クォータ一覧画面に表示する内容を変更するには、次の操作を行ないます。

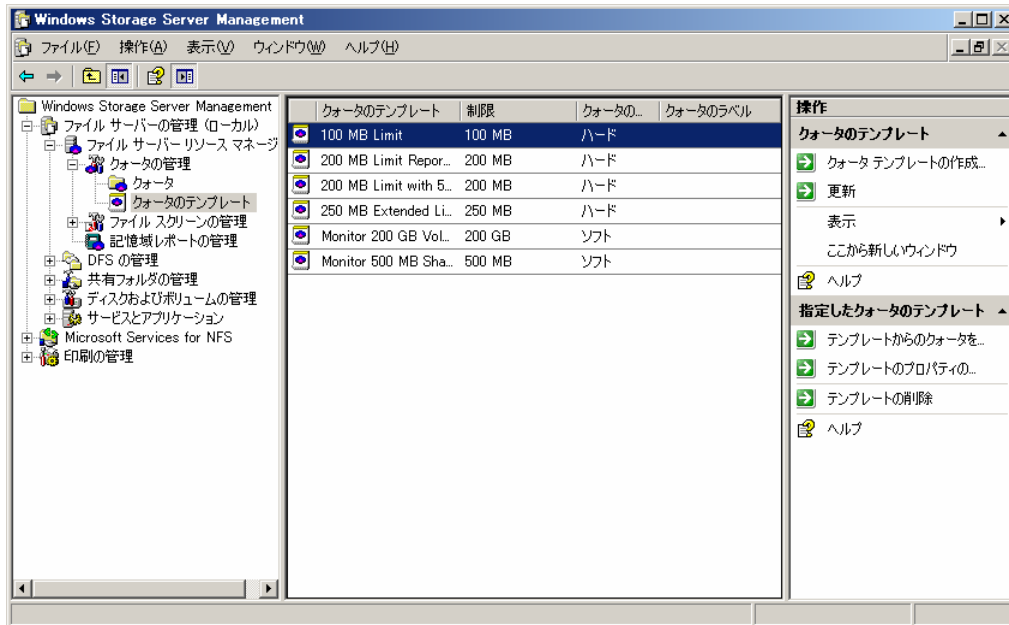
1. Windows Storage Server Management から[ファイルサーバーの管理]→[ファイルサーバーリソースマネージャ]→[クォータの管理]→[クォータ]をクリックします。
2. クォータ一覧画面の上部にある[フィルタ]項目をクリックし、[クォータフィルタ]画面を表示します。



項 目	説 明
クォータの種類	一覧へ表示するクォータの種類を指定します。 “すべて”、“クォータ”、“自動適用クォータ”から選択します。
クォータパス	一覧へ表示するクォータのパスを指定します。 “すべて”、“次のフォルダの親フォルダ”、“次のフォルダの子フォルダ”から選択します。

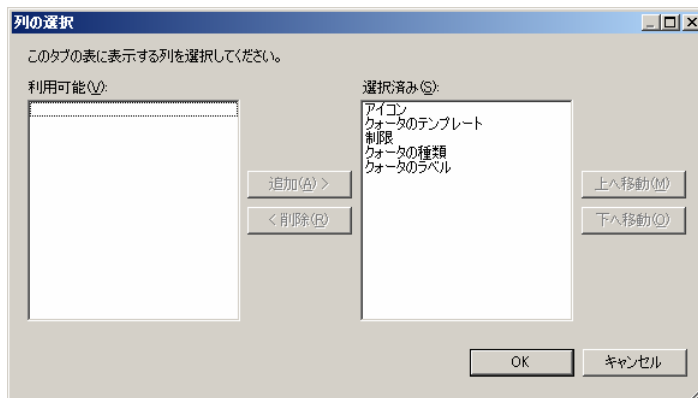
## 6.2.2 クォータのテンプレート

クォータのテンプレートは、再使用可能なクォータ定義のセットを作成します。クォータの既存のセットにテンプレートを適用することや、新しいクォータを作成する際、テンプレートを使用することができます。



最初にクォータのテンプレート画面で表示される項目一覧は次の通りです。

なお、項目一覧は一覧を右クリックし表示されるポップアップメニューより「列の追加と削除」で表示される画面にて追加/削除が可能です。



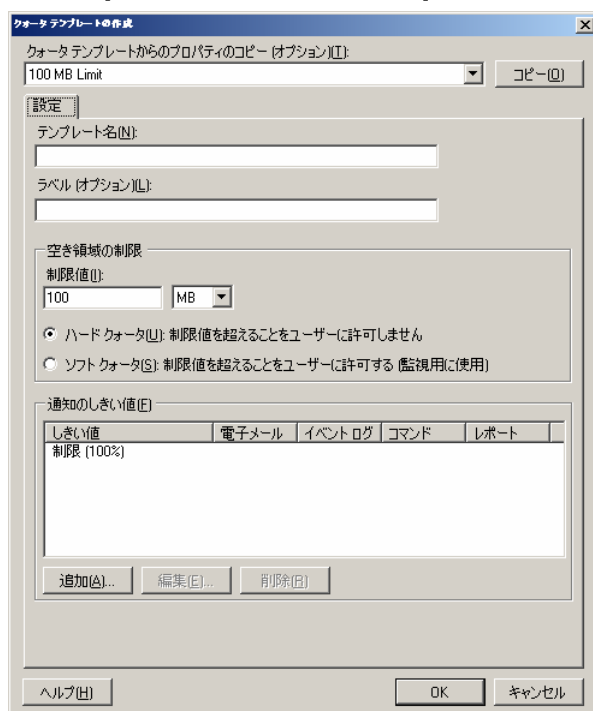
項目	説明
アイコン	アイコンが表示されます。
クォータのテンプレート	クォータのテンプレート名が表示されます。
制限	設定されているディレクトリ領域の制限値が表示されます。
クォータの種類	領域を超える設定は不可能なハードクォータ・領域を超える設定が可能なソフトクォータのどちらが選択されているかが表示されます。
クォータのラベル	クォータに設定しているラベルが表示されます。

また、任意の列（項目）をクリックすることで、ソートすることも可能です。

### 6.2.2.1 クォータテンプレートの作成

指定するフォルダやその配下のサブフォルダに対しクォータを作成するには、次の操作を行ないます。

1. Windows Storage Server Management から[ファイルサーバーの管理]→[ファイルサーバーリソースマネージャ]→[クォータの管理]→[クォータのテンプレート]をクリックします。
2. 操作の一覧で[クォータテンプレートの作成] をクリックします。



項目	説明
クォータテンプレートからのプロパティのコピー	テンプレート一覧より選択し[コピー]ボタンをクリックすると選択したテンプレートの設定が[設定]タブの設定内容にコピーされます。
テンプレート名	テンプレート名を設定します。

## ファイルサーバーリソースマネージャ

項目	説明
ラベル	ラベルを設定します。
制限値	制限値を設定します。
ハードクォータ	設定値を超えてファイルを書き込むことは不可能と設定します。
ソフトクォータ	設定値を超えてもファイル書き込みが可能と設定します。
通知のしきい値	しきい値の設定内容が表示されます。
[追加]ボタン	しきい値を追加します。
[編集]ボタン	選択した既存のしきい値を編集します。
[削除]ボタン	選択したしきい値を削除します。

3. しきい値を新規に作成する場合、[追加]ボタンを、既に作成済みのしきい値を編集する場合は[編集]ボタンをクリックし画面を表示します。

- 3-1. [電子メールメッセージ]項目で警告メッセージを電子メールで送信するかを設定します。

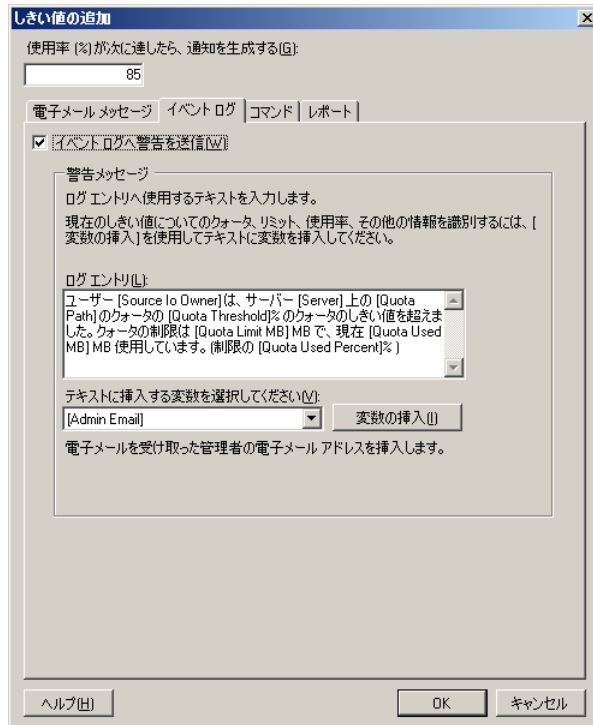
項目	説明
使用率(%)が次に達したら、通知を生成する	しきい値をパーセントで設定します。 <b>本項目は[編集]時に使用率100%の設定を変更時は、設定できません。</b>
次の管理者に電子メールを送信する	管理者に電子メールを送信する場合に設定します。その場合、配下の入力フィールドにメールアドレスを設定します。

項目	説明
しきい値を超えたユーザーに電子メールを送信する	ドメイン環境でご利用の場合、 <b>Active Directory</b> へ登録している電子メールアドレスへ電子メールを送信する際に設定します。
件名	電子メールのタイトルを設定します。
メッセージ本文	電子メールの本文を設定します。
テキストに挿入する変数を選択してください	リストに表示される変数を[変数の挿入]ボタンで[管理者の電子メールアドレス]入力フィールド、[件名]、[メッセージ本文]の項目に設定します。
追加電子メールヘッダー	電子メールのヘッダーを変更する場合、設定します。

- 3-1-1. [電子メールメッセージ]-[追加電子メールヘッダー]ボタンで[追加電子メールヘッダー]画面を表示します。

項目	説明
差出人	差出人の電子メールアドレスをを設定します。
Cc	Ccで送信する電子メールアドレスをを設定します。
Bcc	Bccで送信する電子メールアドレスをを設定します。
返信先	返信先の電子メールアドレスをを設定します。
テキストに挿入する変数を選択してください	リストに表示される変数を[変数の挿入]ボタンで上記の設定項目に設定します。

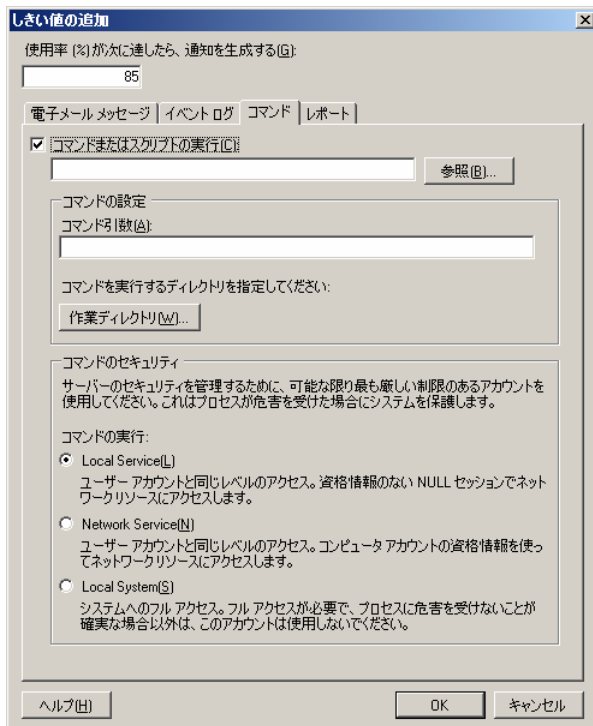
3-2. [イベントログ]項目で警告メッセージをイベントログ(アプリケーション)へ警告メッセージを表示するかを設定します。



項目	説明
イベントログへ警告を送信	イベントログへ警告メッセージを送信する場合に設定します。
ログエントリ	警告メッセージで表示する内容を設定します。
テキストに挿入する変数を選択してください	リストに表示される変数を[変数の挿入]ボタンで上記の設定項目に設定します。

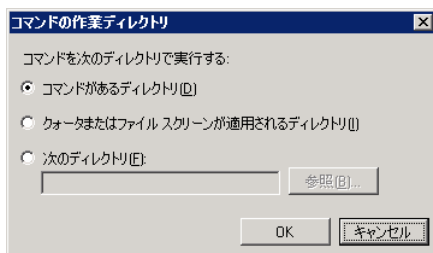


3-3. [コマンド]項目でクォータが動作した際、コマンドを実行するかを設定します。実行する場合、コマンドへのフルパスを設定します。



項目	説明
コマンドまたはスクリプトの実行	実行するコマンド、スクリプトを設定します。
コマンド引数	コマンドに引数がある場合、設定します。
[作業ディレクトリ]ボタン	作業ディレクトリを指定する画面を表示します。
コマンドの実行	セキュリティレベルを設定します。 Local Service, Network Service, Local Systemから選択します。


3-3-1. [コマンド]-[作業ディレクトリ]ボタンをクリックし表示される[コマンドの作業ディレクトリ]画面で作業フォルダを設定します。



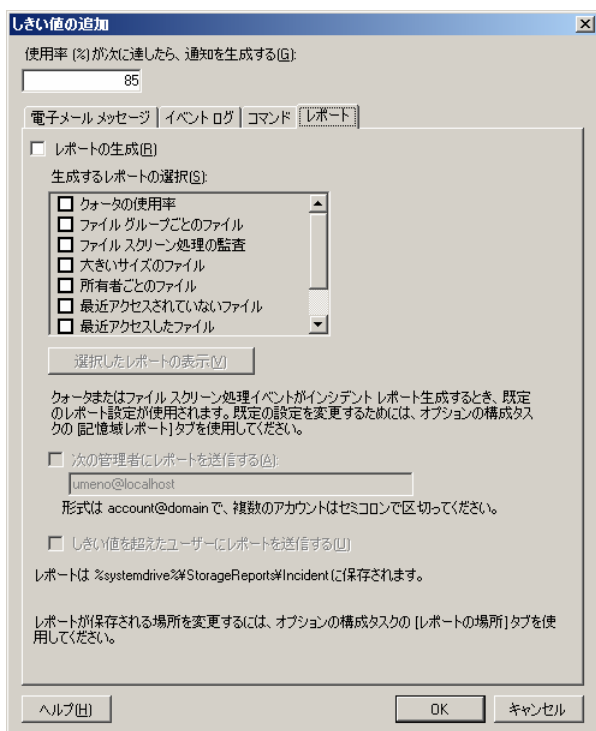
"コマンドがあるディレクトリ"以外を選択しコマンドを実行する場合は環境変数で予め対象フォルダへのパスを設定する必要があります。

3-3-2.[コマンド]-[コマンドのセキュリティ]では実行コマンドのセキュリティレベルを以下の3点より選択し設定します。

- Local Service
- Network Service
- Local System

 "Local Service"及び"Network Service"を選択する場合、対象フォルダのアクセス権にUsers グループ"ファイルの作成/データの書き込み"権限が設定されているとセキュリティ上、動作しません。また"書き込み"以上の権限を設定した場合も同様です。それぞれに対応する"Local Service"アカウント、"Network Service"アカウントをご利用することを推奨します。

3-4. [レポート]項目でクォータが動作した際、レポートを作成するかを設定します。作成する場合、生成するレポートを設定します。



項 目	説 明
レポートの生成	レポートを生成する場合に設定します。その場合、配下の[生成するレポートの選択]項目で生成するレポートを選択します。

項目	説明
[選択したレポートの表示] ボタン	[生成するレポートの選択]項目で選択したレポートを表示します。
次の管理者にレポートを送信する	管理者に電子メールでレポートを送信する場合に設定します。その場合、配下の入力フィールドにメールアドレスを設定します。
しきい値を超えたユーザーにレポートを送信する	ドメイン環境でご利用の場合、Active Directoryへ登録している電子メールアドレスへ電子メールを送信する際に設定します。

- 3-5. 設定が全て完了したら[OK]ボタンをクリックし[クォータのプロパティ]画面に戻ります。
4. 既存のしきい値を削除する場合、[設定]-[通知のしきい値]-[削除]ボタンをクリックし、しきい値を削除します。
5. 設定が全て完了し[OK]ボタンをクリックするとクォータが作成します。

### 6.2.2.2 更新

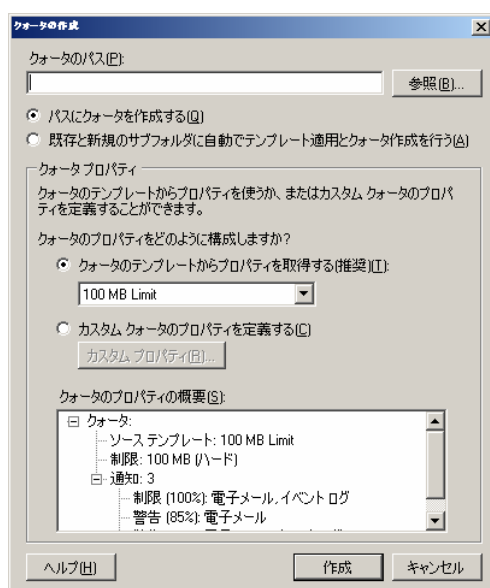
作成したクォータテンプレート一覧表示の情報を更新し最新の状態へするには、次の操作を行ないます。

1. Windows Storage Server Management から[ファイルサーバーの管理]→[ファイルサーバーリソースマネージャ]→[クォータの管理]→[クォータのテンプレート]をクリックします。
2. 操作の一覧で[更新] をクリックします。

### 6.2.2.3 テンプレートからクォータを作成

選択中のクォータからテンプレートを作成するには、次の操作を行ないます。

1. Windows Storage Server Management から[ファイルサーバーの管理]→[ファイルサーバーリソースマネージャ]→[クォータの管理]→[クォータのテンプレート]をクリックします。
2. 操作の一覧で[テンプレートからクォータを作成] をクリックし[クォータテンプレートの作成]画面を表示します。



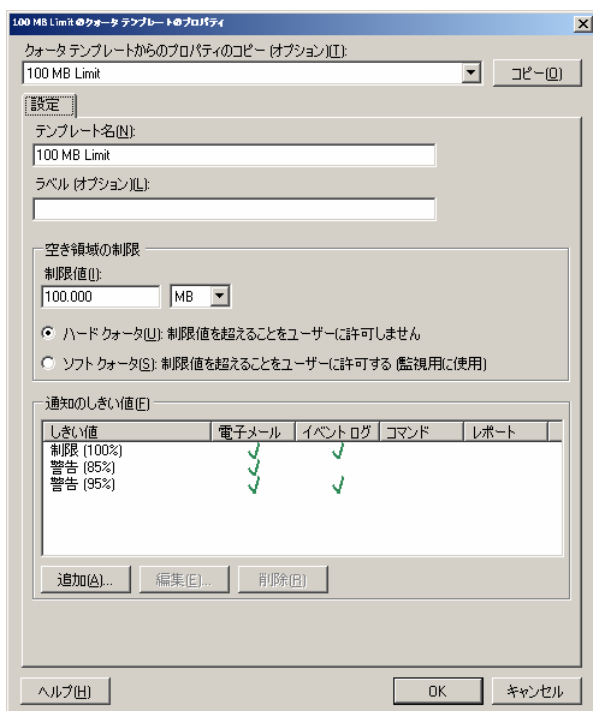
項 目	説 明
クォータのパス	クォータを設定するフォルダのフルパスを設定します。
パスにクォータを作成する	“クォータのパス”項目で指定したフォルダに対しクォータを設定します。
既存と新規のサブフォルダに自動でテンプレート適用とクォータ作成を行なう	“クォータのパス”項目で指定したフォルダ及びそのサブフォルダに対しクォータを設定します。
クォータのプロパティをどのように構成しますか？	“クォータのテンプレートからプロパティを取得する”および“カスタムクォータのプロパティを定義する”から選択します。
クォータのテンプレートからプロパティを取得する	配下の一覧より項目を選択します。
カスタムクォータのプロパティを定義する	[カスタムプロパティ]ボタンをクリックし、設定を行ないます。
クォータのプロパティの概要	設定されたプロパティが表示されます。
[作成]ボタン	上記項目にて設定した条件でクォータを作成します。

3. [クォータのパス]項目で作成するフォルダを設定し、[作成]ボタンをクリックします。なお、クォータテンプレートに変更を加えてクォータを作成する事も可能です。

### 6.2.2.4 テンプレートのプロパティの編集

選択中のクォータのプロパティを編集するには、次の操作を行ないます。

1. Windows Storage Server Management から[ファイルサーバーの管理]→[ファイルサーバーリソースマネージャ]→[クォータの管理]→[クォータのテンプレート]をクリックします。
2. 操作の一覧で[テンプレートのプロパティの編集] をクリックします。以下の画面が表示されますので設定後[OK]ボタンをクリックすると編集が反映されます。



### 6.2.2.5 テンプレートの削除

選択中のクォータを削除するには、次の操作を行ないます。

1. Windows Storage Server Management から[ファイルサーバーの管理]→[ファイルサーバーリソースマネージャ]→[クォータの管理]→[クォータのテンプレート]をクリックします。
2. 操作の一覧で[テンプレートの削除] をクリックします。

### 6.2.3 定義済み情報

あらかじめ定義されている、クォータテンプレート、メッセージ マクロについての情報を示します。

#### 定義済みテンプレート

テンプレート名	制限	クォータの種類	しきい値
100 MB Limit	100 MB	ハード	<b>100%</b> 電子メール通知：オン イベント ログ：オン コマンド：オフ レポート：オフ  <b>95%</b> 電子メール通知：オン イベント ログ：オン コマンド：オフ レポート：オフ  <b>85%</b> 電子メール通知：オン イベント ログ：オフ コマンド：オフ レポート：オフ
200 MB Limit Reports to User	200 MB	ハード	<b>100%</b> 電子メール通知：オン イベント ログ：オン コマンド：オフ レポート：オン  <b>95%</b> 電子メール通知：オン イベント ログ：オン コマンド：オフ レポート：オフ  <b>85%</b> 電子メール通知：オン イベント ログ：オフ コマンド：オフ レポート：オフ

ファイルサーバーリソースマネージャ

テンプレート名	制限	クォータの種類	しきい値
200MB Limit With 50MB Extension	200 MB	ハード	<p><b>100%</b> 電子メール通知：オン イベント ログ：オン コマンド：オン レポート：オフ</p> <p><b>95%</b> 電子メール通知：オン イベント ログ：オン コマンド：オフ レポート：オフ</p> <p><b>85%</b> 電子メール通知：オン イベント ログ：オフ コマンド：オフ レポート：オフ</p>
250MB Extension Limit	250 MB	ハード	<p><b>100%</b> 電子メール通知：オン イベント ログ：オン コマンド：オフ レポート：オフ</p> <p><b>95%</b> 電子メール通知：オン イベント ログ：オン コマンド：オフ レポート：オフ</p> <p><b>85%</b> 電子メール通知：オン イベント ログ：オフ コマンド：オフ レポート：オフ</p>

ファイルサーバーリソースマネージャ

テンプレート名	制限	クォータの種類	しきい値
Monitor 200 GB Volume Usage	200GB	ソフト	<p><b>100%</b>            電子メール通知：オン            イベント ログ：オン            コマンド：オフ            レポート：オフ</p> <p><b>90%</b>            電子メール通知：オン            イベント ログ：オン            コマンド：オフ            レポート：オフ</p> <p><b>80%</b>            電子メール通知：オン            イベント ログ：オフ            コマンド：オフ            レポート：オフ</p> <p><b>70%</b>            電子メール通知：オン            イベント ログ：オフ            コマンド：オフ            レポート：オフ</p>
Monitor 500MB Share	500MB	ソフト	<p><b>100%</b>            電子メール通知：オン            イベント ログ：オン            コマンド：オフ            レポート：オフ</p> <p><b>120%</b>            電子メール通知：オン            イベント ログ：オン            コマンド：オフ            レポート：オフ</p> <p><b>80%</b>            電子メール通知：オン            イベント ログ：オフ            コマンド：オフ            レポート：オフ</p>



### メッセージ マクロ

メッセージ マクロとは、電子メールメッセージやイベントログへメッセージを出力する際、システムで得られる情報を含めるために使用します。

メッセージ マクロを挿入するには、挿入したい場所にカーソルを合わせ、挿入マクロからプルダウンボックスで表示されるメッセージ マクロを選択することで挿入します。

内容は通知メッセージが通知される際に、システムで得られる情報に置換されます。

挿入して使用可能なメッセージ マクロの設定内容一覧は以下の通りです。

なお、メッセージ マクロは予めに定義されたものであり設定を変更することは出来ません。

マクロ名	説 明
[Admin Email]	電子メールを受け取った管理者の電子メールアドレス
[Quota Free KB]	クォータの下に残っている空き領域 KB単位
[Quota Free MB]	クォータの下に残っている空き領域 MB単位
[Quota Free Percent]	クォータの下に残っている空き領域 パーセント単位
[Quota Free]	クォータの下に残っている空き領域 バイト単位
[Quota High Water Mark KB]	クォータのピーク時の使用率 KB単位
[Quota High Water Mark MB]	クォータのピーク時の使用率 MB単位
[Quota High Water Mark Percent]	クォータのピーク時の使用率 パーセント単位
[Quota High Water Mark]	クォータのピーク時の使用率 バイト単位
[Quota High Water Time]	ピーク時の使用率が記録された時間
[Quota Limit KB]	クォータの制限値 KB単位
[Quota Limit MB]	クォータの制限値 MB単位
[Quota Limit]	クォータの制限値 バイト単位
[Quota Path]	クォータのパス
[Quota Remote Paths]	クォータのリモートパス UNC形式(¥¥server¥share¥)
[Quota System Path]	クォータのパス 標準形式(¥¥?¥VolumeGUID¥)
[Quota Threshold]	通知の原因となるクォータのしきい値
[Quota Used KB]	クォータの使用率 KB単位
[Quota Used MB]	クォータの使用率 MB単位
[Quota Used Percent]	クォータの使用率 パーセント単位
[Quota Used]	クォータの使用率 バイト単位
[Server Domain]	通知の発生したサーバーのドメイン
[Server]	通知の発生したサーバー
[Source File Owner Email]	通知の原因となるファイルの所有者の電子メールアドレス
[Source File Owner]	通知の原因となるファイルの所有者のユーザー名

マクロ名	説明
[Source File Path]	通知の原因となるファイルのパス
[Source File Remote Paths]	通知の原因となるファイルのリモートパス UNC形式
[Source Io Owner Email]	通知をトリガしたユーザーの電子メールアドレス
[Source Io Owner]	通知をトリガしたファイル I/O の所有者
[Source Process Id]	通知をトリガしたプロセスのPID
[Source Process Image]	通知をトリガしたプロセスの実行可能ファイル



ネットワーク共有作成直後、メッセージ マクロ[Quota Remote Paths]及び[Source File Remote Paths]を使用しメッセージを出力すると、パス名が正常に表示されずマクロ名がそのまま表示されることがあります。

このような場合は一時間程度、時間を経過させることにより正常に表示可能となります。

## 6.2.4 コマンド情報

コマンドラインを使用してクォータの設定を行なう場合は、`dirquota` コマンドを使用します。

詳細は、`dirquota /?`を実行しヘルプを参照してください。

## 6.3 ファイルスクリーンの管理

ファイル スクリーンは、望ましくないファイルが iStorage NS に保存されないようにするための機能です。ファイル スクリーン機能を使用することによって望ましくない画像や、ゲーム、動画ファイル等が iStorage NS に格納されることを防止することができます。

スクリーニングするためには制限、監視したい対象のディレクトリに対し、ファイル スクリーン テンプレートを設定します。ファイル スクリーン テンプレートは、ファイル グループで構成されており、あらかじめ 5 つ定義されています。ファイル グループでは、含めるファイル、除外するファイルの種類を定義しており、あらかじめ 11 のファイル グループが定義されています。

また、ファイル スクリーン テンプレートやファイル グループは新たに作成することや、定義済みの設定をカスタマイズすることができます。

ファイル スクリーンには、次の機能があります。

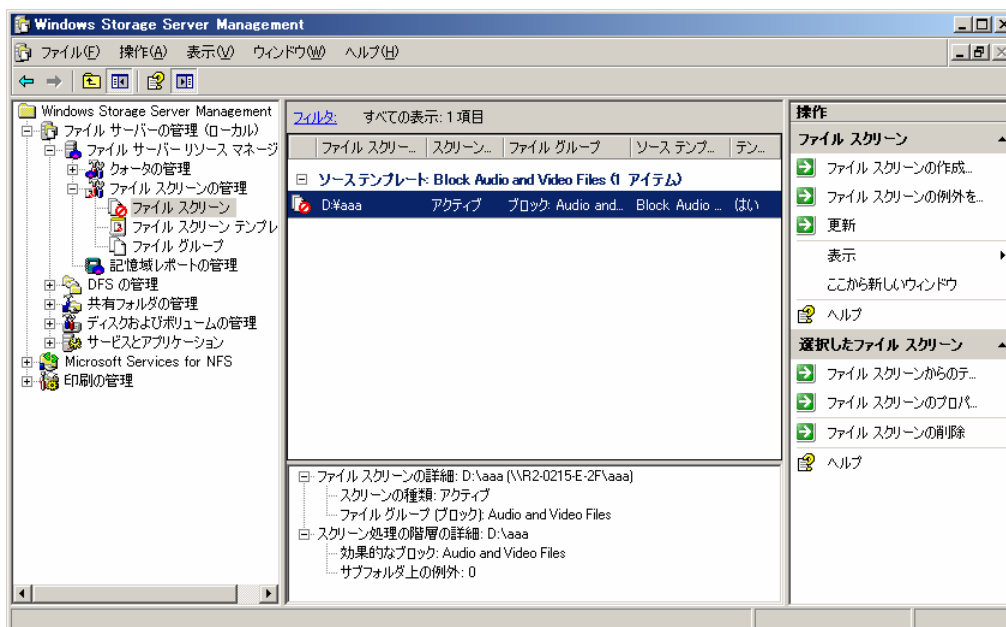
機 能
ディレクトリ上でのアクティブおよびパッシブ ファイル スクリーン
電子メールによるメッセージ通知機能
イベントログへのメッセージ通知機能
通知がアクティブなときのレポート通知機能
通知がアクティブなときのカスタム スクリプトの実行機能



システム パーティションにファイル スクリーンを設定する場合、「ドライブ直下」及び「WINDOWS フォルダ配下」へはファイル 監視のみを行うパッシブ スクリーン の設定のみ可能となります。

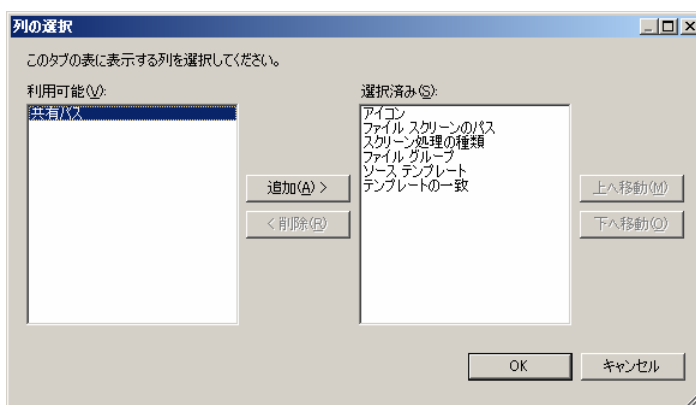
### 6.3.1 ファイル スクリーン

ファイルスクリーンにより、iStorage NS 上の選択したディレクトリ、またはパーティションに対する領域を実際に制限、監視します。



ファイルスクリーン画面で表示される項目一覧は次の通りです。

なお、項目一覧は一覧を右クリックし表示されるポップアップメニューより「列の追加と削除」で表示される画面にて追加/削除が可能です。



項目	説明
アイコン	アイコンが表示されます。
ファイルスクリーンのパス	ファイルスクリーンを設定しているフォルダのパスが表示されます。

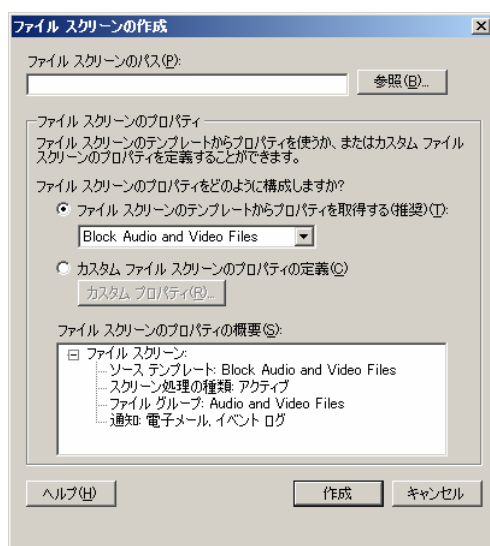
項目	説明
ファイルスクリーン処理の種類	承認されていないファイルの書き込みが不可能な <b>アクティブ</b> スクリーン処理・承認されていないファイルの書き込みも可能な <b>パッシブ</b> スクリーン処理のどちらが選択されているかが表示されます。
ファイルグループ	選択されているファイルのグループが表示されます。
ソーステンプレート	ファイルスクリーンテンプレートを使用している場合、テンプレート名が表示されます。
テンプレートの一致	ファイルスクリーンテンプレートをカスタマイズせず使用しているかが表示されます。
共有パス	ファイルスクリーンのパスに設定された共有フォルダ名が表示されます。

また、任意の列（項目）をクリックすることで、ソートすることも可能です。

### 6.3.1.1 ファイルスクリーンの作成

指定するフォルダに対しファイルスクリーンを作成するには、次の操作を行ないます。

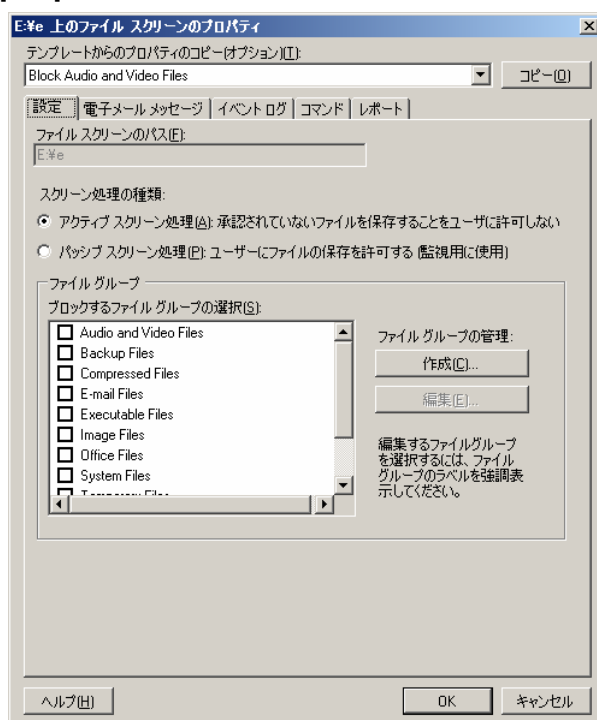
1. Windows Storage Server Management から[ファイルサーバーの管理]→[ファイルサーバーリソースマネージャ]→[ファイルスクリーンの管理]→[ファイルスクリーン]をクリックします。
2. 操作の一覧で[ファイルスクリーンの作成]をクリックし[ファイルスクリーンの作成]画面を表示します。



項目	説明
ファイルスクリーンのパス	ファイルスクリーンを設定するフォルダのフルパスを設定します。

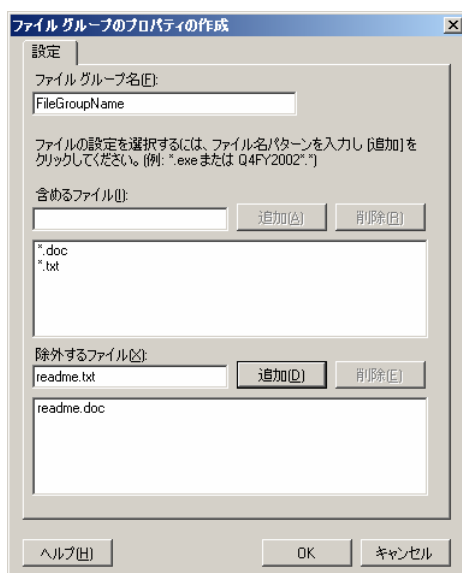
項目	説明
クォータのプロパティをどのように構成しますか？	“ファイルスクリーンのテンプレートからプロパティを取得する”および“カスタムファイルスクリーンのプロパティの定義”から選択します。
ファイルスクリーンのテンプレートからプロパティを取得する	配下の一覧より項目を選択します。
カスタムファイルスクリーンのプロパティの定義	[カスタムプロパティ]ボタンをクリックし、設定を行ないます。
ファイルスクリーンのプロパティの概要	設定されたプロパティが表示されます。
[作成]ボタン	上記項目にて設定した条件でクォータを作成します。

3. [ファイルスクリーンのプロパティ]項目で[ファイルスクリーンのテンプレートからプロパティを取得する]もしくは[カスタムファイルスクリーンのプロパティの定義]を選択します。
- 3-1. [ファイルスクリーンのテンプレートからプロパティを取得する]を選択する場合、リストに表示されるテンプレート一覧から選択し[作成]ボタンでファイルスクリーンを作成します。
- 3-2. [カスタムファイルスクリーンのプロパティの定義]を選択する場合、[カスタムプロパティ]ボタンをクリックし、[スクリーンのプロパティ]画面を表示します。
- 3-2-1. [設定]項目で作成するファイルスクリーンを設定します。



項目	説明
テンプレートからのプロパティのコピー	テンプレート一覧より選択し[コピー]ボタンをクリックすると選択したテンプレートの設定が[設定]タブの設定内容にコピーされます。
アクティブスクリーン処理	許可していないファイルを保存することは不可能と設定します。
パッシブスクリーン処理	許可していないファイルも保存することを可能と設定します。
[作成]ボタン	ファイルグループを追加します。
[編集]ボタン	選択したファイルグループを編集します。

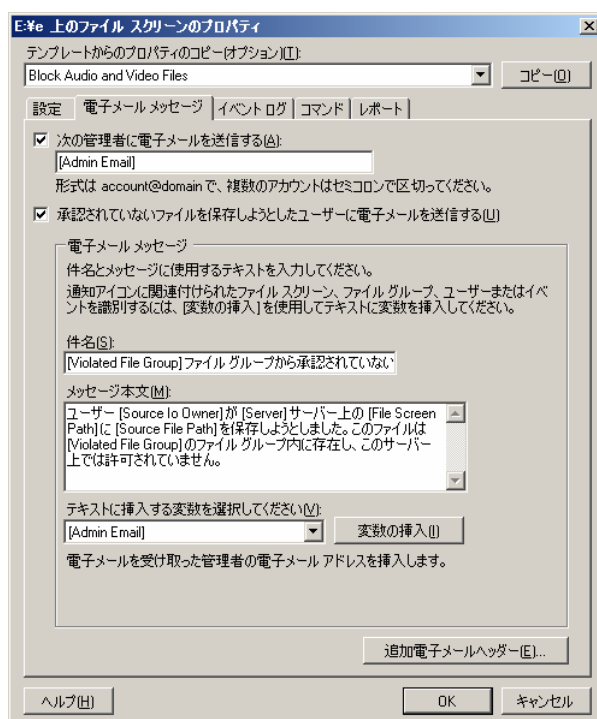
- 3-2-1-1. [ブロックするファイルグループの選択]項目を選択します。また、ファイルグループを新規に作成する場合は[作成]ボタンを、既に作成済みのファイルグループを編集する場合は[編集]ボタンをクリックし画面を表示します。



項目	説明
ファイルグループ名	ファイルグループ名を設定します。
含めるファイル	書き込みさせないファイルを指定します。 ファイル指定は、名前、または拡張子、あるいはその両方でスクリーニングできます。例えば拡張子 *.mp3 を指定すると、すべてのmp3ファイルがスクリーニングされ、書き込みできないようにブロックされます。 グループに含めるファイルを入力し、[追加]ボタンをクリックすることにより一覧へ追加します。また削除する場合は一覧より選択し、[削除]ボタンをクリックします。

項目	説明
除外するファイル	<p>“含むるファイル”にて設定しているファイルに対し、その一部を許可したい場合に指定します。</p> <p>例えば、“許可しないファイル”で、*.mp3と指定し、“許可するファイル”で、test.mp3と指定した場合、test.mp3だけは、書き込み等が許可されます。</p> <p>グループから除外するファイルを入力し、[追加]ボタンをクリックすることにより一覧へ追加します。また削除する場合は一覧より選択し、[削除]ボタンをクリックします。</p>

3-2-2.[電子メールメッセージ]項目で警告メッセージを電子メールで送信するかを設定します。



項目	説明
次の管理者に電子メールを送信する	管理者に電子メールを送信する場合に設定します。その場合、配下の入力フィールドにメールアドレスを設定します。
承認されていないファイルを保存しようとしたユーザーに電子メールを送信する	対象ユーザーへ電子メールを送信する場合に設定します。
件名	電子メールのタイトルを設定します。
メッセージ本文	電子メールの本文を設定します。
テキストに挿入する変数を選択してください	リストに表示される変数を[変数の挿入]ボタンで[管理者の電子メールアドレス]入力フィールド、[件名]、[メッセージ本文]の項目に設定します。
追加電子メールヘッダー	電子メールのヘッダーを変更する場合、設定します。



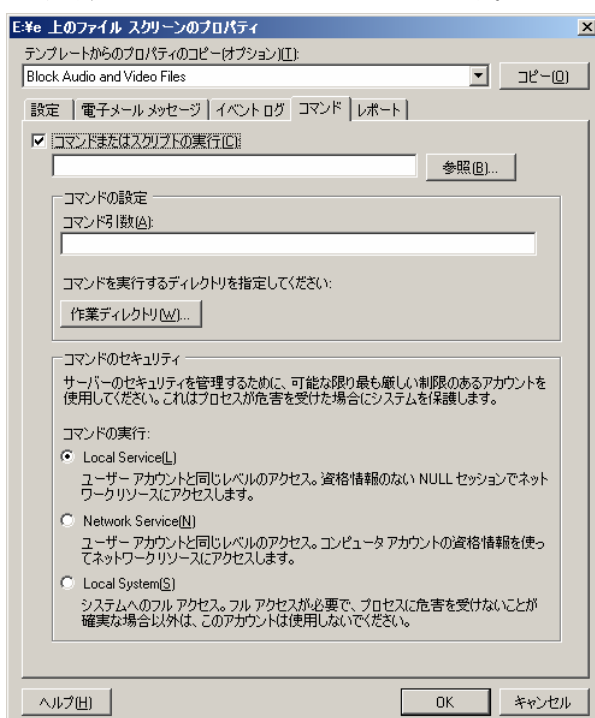
3-2-2-1. [追加電子メールヘッダー]ボタンで[追加電子メールヘッダー]画面を表示します。

項目	説明
差出人	差出人の電子メールアドレスをを設定します。
Cc	Ccで送信する電子メールアドレスをを設定します。
Bcc	Bccで送信する電子メールアドレスをを設定します。
返信先	返信先の電子メールアドレスをを設定します。
テキストに挿入する変数を選択してください	リストに表示される変数を[変数の挿入]ボタンで上記の設定項目に設定します。

3-2-3.[イベントログ]項目で警告メッセージをイベントログ(アプリケーション)へ警告メッセージを表示するかを設定します。

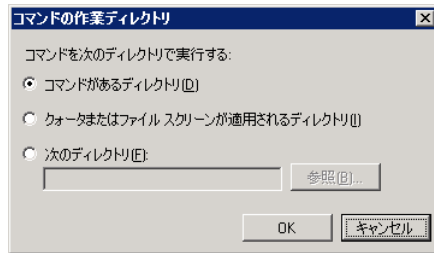
項 目	説 明
イベントログへ警告を送信	イベントログへ警告メッセージを送信する場合に設定します。
ログエントリ	警告メッセージで表示する内容を設定します。
テキストに挿入する変数を 選択してください	リストに表示される変数を[変数の挿入]ボタンで上記の設定項目に設定 します。

3-2-4.[コマンド]項目でファイルスクリーンが動作した際、コマンドを実行するかを設定します。実行  
する場合、コマンドへのフルパスを設定します。




項 目	説 明
コマンドまたはスクリプトの実行	実行するコマンド、スクリプトを設定します。
コマンド引数	コマンドに引数がある場合、設定します。
[作業ディレクトリ]ボタン	作業ディレクトリを指定する画面を表示します。
コマンドの実行	セキュリティレベルを設定します。 Local Service,Network Service,Local Systemから選択します。

- 3-2-4-1. [作業ディレクトリ]ボタンをクリックし表示される[コマンドの作業ディレクトリ]画面で作業フォルダを設定します。

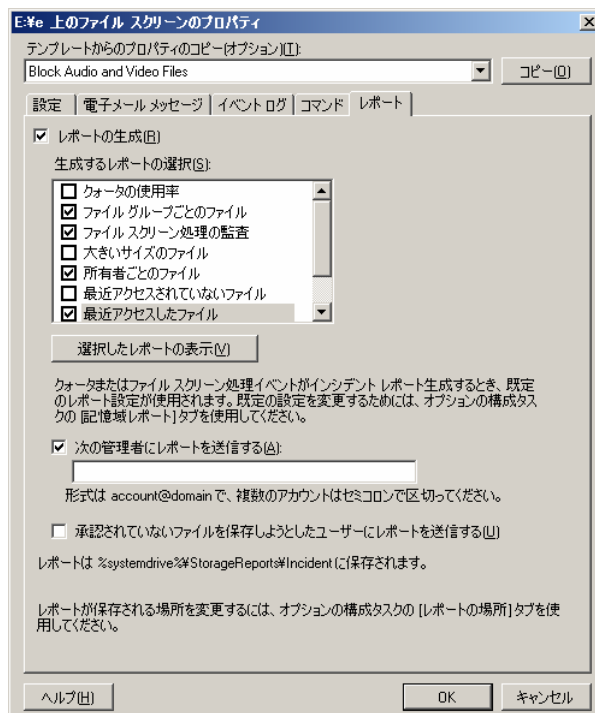


- 3-2-4-2. [コマンドのセキュリティ]では実行コマンドのセキュリティレベルを以下の 3 点より選択し設定します。

- Local Service
- Network Service
- Local System

 "Local Service"及び"Network Service"を選択する場合、対象フォルダのアクセス権に Users グループ"ファイルの作成/データの書き込み"権限が設定されているとセキュリティ上、動作しません。また"書き込み"以上の権限を設定した場合も同様です。それぞれに対応する"Local Service"アカウント、"Network Service"アカウントをご利用することを推奨します。

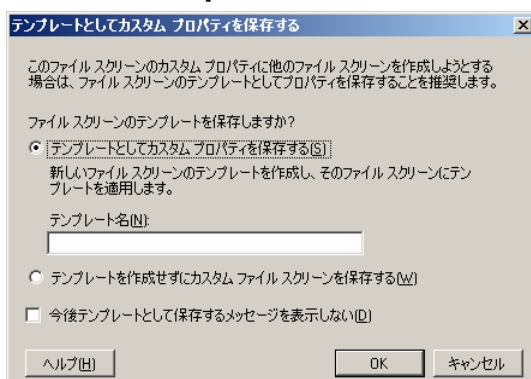
- 3-2-5.[レポート]項目でファイルスクリーンが動作した際、レポートを作成するかを設定します。作成する場合、生成するレポートを設定します。



項目	説明
レポートの生成	レポートを生成する場合に設定します。その場合、配下の[生成するレポートの選択]項目で生成するレポートを選択します。
[選択したレポートの表示]ボタン	[生成するレポートの選択]項目で選択したレポートを表示します。
次の管理者にレポートを送信する	管理者に電子メールでレポートを送信する場合に設定します。その場合、配下の入力フィールドにメールアドレスを設定します。
承認されていないファイルを保存しようとしたユーザーにレポートを送信する	対象ユーザーへ電子メールでレポートを送信する場合に設定します。

3-2-6. 設定が全て完了したら[OK]ボタンをクリックし[ファイルスクリーンの作成]画面に戻ります。

3-2-7. [作成]ボタンをクリックしファイルスクリーンを設定します。[テンプレートとしてカスタムプロパティを保存する]画面が表示され、テンプレートとして保存するか選択します。



項目	説明
テンプレートとしてカスタムプロパティを保存する	設定した内容をテンプレートとして登録する場合、テンプレート名と共に設定します。
テンプレートを作成せずにカスタムファイルスクリーンを保存する	設定した内容はテンプレートとして登録されず、今回作成したファイルスクリーンにのみ設定されます。
今後テンプレートとして保存するメッセージを表示しない	本画面を今後、表示しない場合、設定します。

### 6.3.1.2 ファイルスクリーンの例外を作成

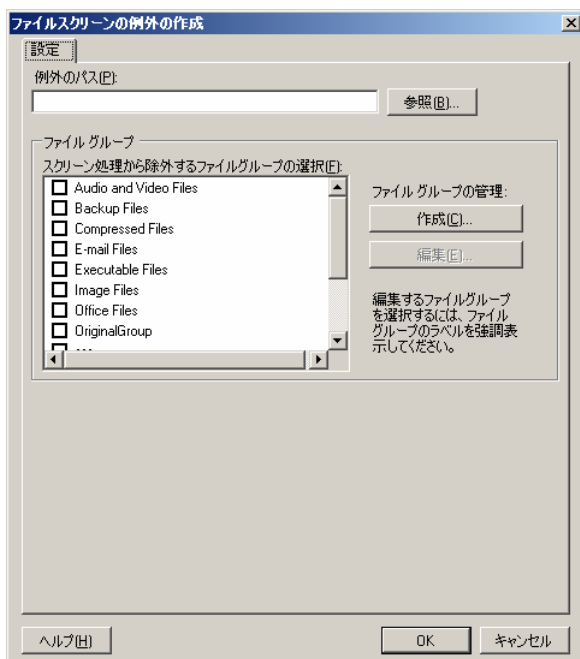
他のファイルスクリーンがブロックしているファイルを許可するには、ファイルスクリーンの例外を作成します。

ファイルスクリーンの例外を作成するには、次の操作を行ないます。



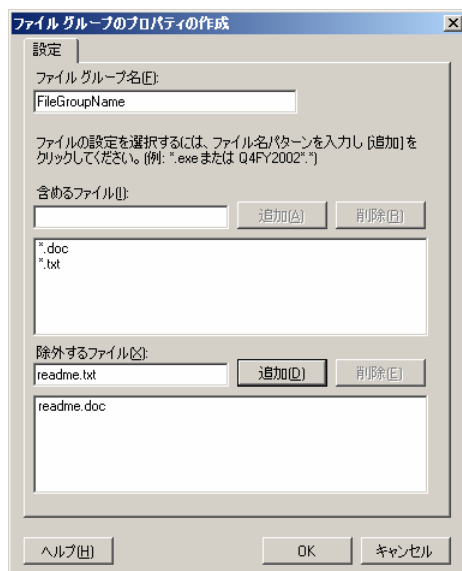
ファイルスクリーンの例外は、特定のファイルスクリーンには適用されないことに注意してください。また、設定内容は関係するすべてのファイルスクリーン処理に優先します。

1. Windows Storage Server Management から[ファイルサーバーの管理]→[ファイルサーバーリソースマネージャ]→[ファイルスクリーンの管理]→[ファイルスクリーン]をクリックします。
2. 操作の一覧で[ファイルスクリーンの例外の作成] をクリックし[ファイルスクリーンの例外の作成]画面を表示します。



項目	説明
例外のパス	ファイルスクリーンの例外とするパスを設定します。
[作成]ボタン	ファイルグループを追加します。
[編集]ボタン	選択したファイルグループを編集します。

3. [スクリーン処理から除外するファイルグループの選択]項目を選択します。また、ファイルグループを新規に作成する場合は[作成]ボタンを、既に作成済みのファイルグループを編集する場合は[編集]ボタンをクリックし画面を表示します。



項 目	説 明
ファイルグループ名	ファイルグループ名を設定します。
含めるファイル	書き込みさせないファイルを指定します。 ファイル指定は、名前、または拡張子、あるいはその両方でスクリーニングできます。例えば拡張子 *.mp3 を指定すると、すべてのmp3ファイルがスクリーニングされ、書き込みできないようにブロックされます。 グループに含めるファイルを入力し、[追加]ボタンをクリックすることにより一覧へ追加します。また削除する場合は一覧より選択し、[削除]ボタンをクリックします。
除外するファイル	“含めるファイル”にて設定しているファイルに対し、その一部を許可したい場合に指定します。 例えば、“許可しないファイル”で、*.mp3と指定し、“許可するファイル”で、test.mp3と指定した場合、test.mp3だけは、書き込み等が許可されます。 グループから除外するファイルを入力し、[追加]ボタンをクリックすることにより一覧へ追加します。また削除する場合は一覧より選択し、[削除]ボタンをクリックします。

### 6.3.1.3 更新

作成したファイルスクリーン一覧表示の情報を更新し最新の状態へするには、次の操作を行ないます。

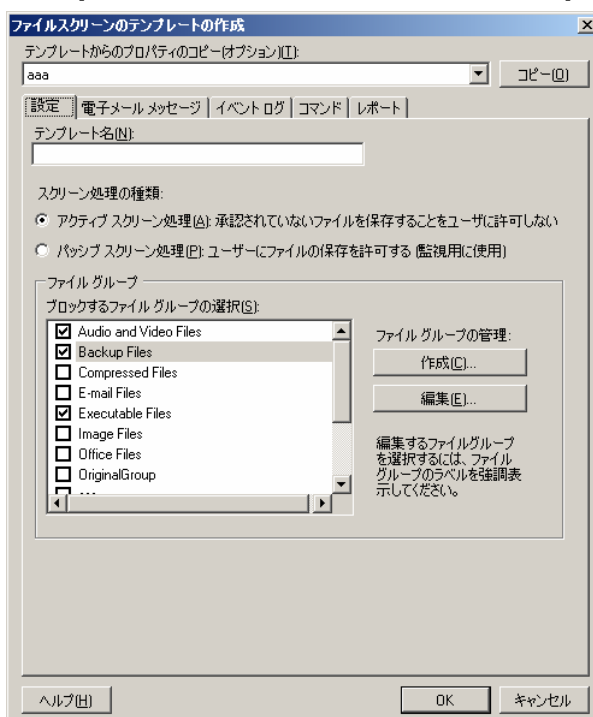
1. Windows Storage Server Management から[ファイルサーバーの管理]→[ファイルサーバーリソースマネージャ]→[ファイルスクリーンの管理]→[ファイルスクリーン]をクリックします。

2. 操作の一覧で[更新] をクリックします。

### 6.3.1.4 ファイルスクリーンからのテンプレートを作成

選択中のファイルスクリーンからファイルスクリーンテンプレートを作成するには、次の操作を行ないます。

1. Windows Storage Server Management から[ファイルサーバーの管理]→[ファイルサーバーリソースマネージャ]→[ファイルスクリーンの管理]→[ファイルスクリーン]をクリックします。
2. 操作の一覧で[ファイルスクリーンからテンプレートを作成] をクリックします。



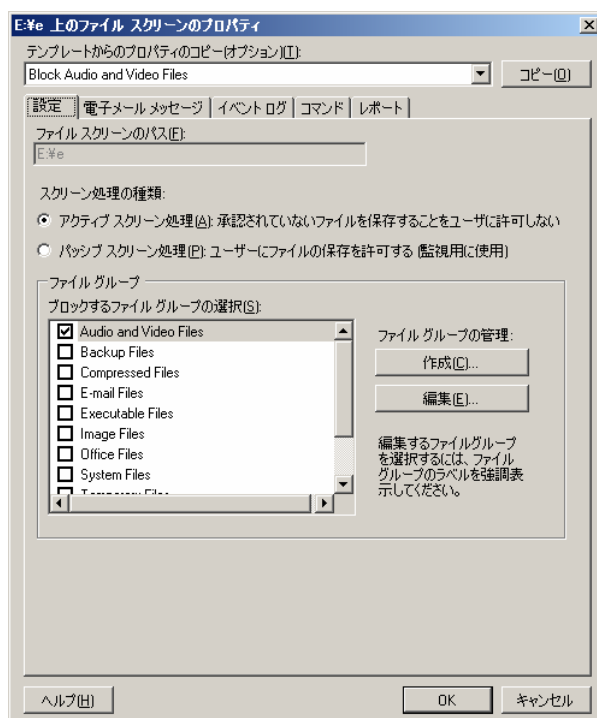
項目	説明
テンプレートからのプロパティのコピー	テンプレート一覧より選択し[コピー]ボタンをクリックすると選択したテンプレートの設定が[設定]タブの設定内容にコピーされます。
テンプレート名	テンプレート名を設定します。
アクティブスクリーン処理	許可していないファイルを保存することは不可能と設定します。
パッシブスクリーン処理	許可していないファイルも保存することを可能と設定します。
[作成]ボタン	ファイルグループを追加します。
[編集]ボタン	選択したファイルグループを編集します。

3. [設定]-[テンプレート名]項目で作成するテンプレート名を設定し、[OK]ボタンをクリックします。  
なお、選択したファイルスクリーンテンプレートに変更を加えてテンプレートを作成する事も可能です。

### 6.3.1.5 ファイルスクリーンのプロパティの編集

選択中のファイルスクリーンのプロパティを編集するには、次の操作を行ないます。

1. Windows Storage Server Management から[ファイルサーバーの管理]→[ファイルサーバーリソースマネージャ]→[ファイルスクリーンの管理]→[ファイルスクリーン]をクリックします。
2. 操作の一覧で[ファイルスクリーンのプロパティの編集] をクリックします。



項 目	説 明
テンプレートからのプロパティのコピー	テンプレート一覧より選択し[コピー]ボタンをクリックすると選択したテンプレートの設定が[設定]タブの設定内容にコピーされます。
アクティブスクリーン処理	許可していないファイルを保存することは不可能と設定します。
パッシブスクリーン処理	許可していないファイルも保存することを可能と設定します。
[作成]ボタン	ファイルグループを追加します。
[編集]ボタン	選択したファイルグループを編集します。

3. 選択したファイルスクリーンテンプレートの設定内容を変更し[OK]ボタンをクリックします。

### 6.3.1.6 ファイルスクリーンの削除

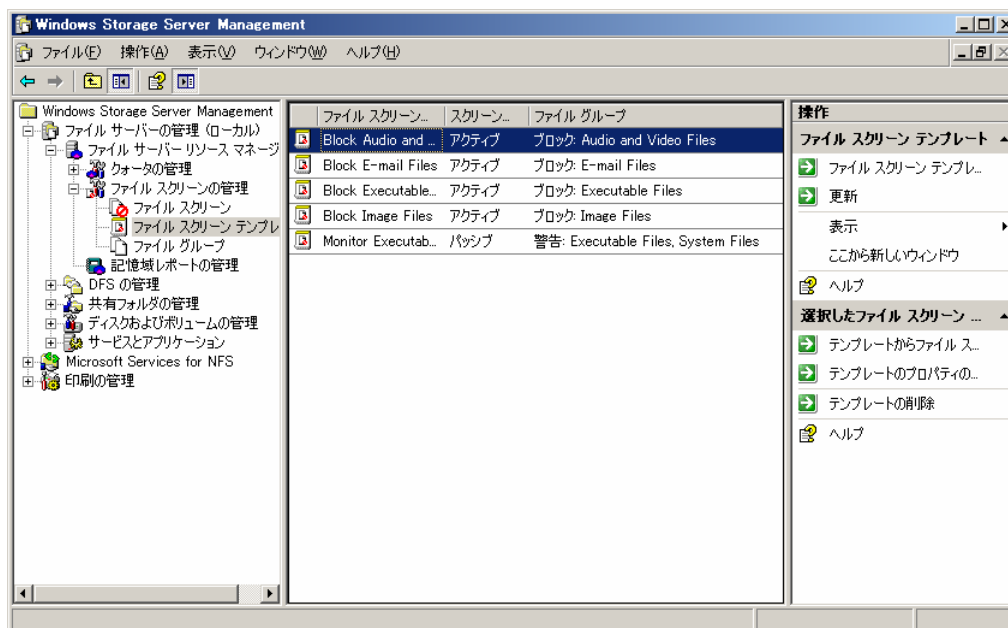
選択中のファイルスクリーンを削除するには、次の操作を行ないます。

1. Windows Storage Server Management から[ファイルサーバーの管理]→[ファイルサーバーリソースマネージャ]→[ファイルスクリーンの管理]→[ファイルスクリーン]をクリックします。
2. 操作の一覧で[削除] をクリックします。



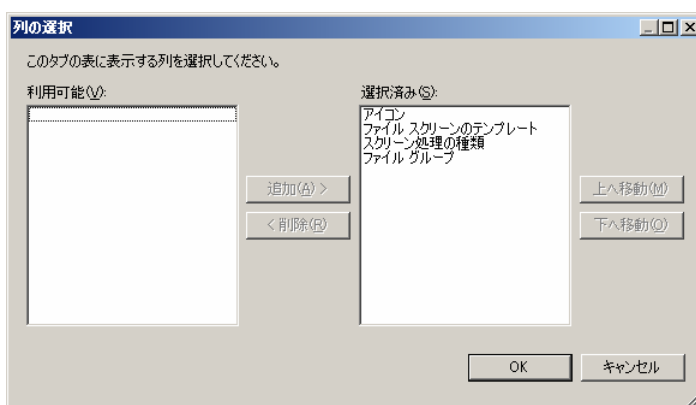
### 6.3.2 ファイルスクリーンテンプレート

ファイルスクリーン テンプレートは、ファイルスクリーンで使用するためのテンプレートを作成します。ファイルスクリーン テンプレートは、あらかじめ 5 つ定義されていますが、新規にカスタマイズしたものを作成することができます。定義済みのファイルスクリーン テンプレートの詳細については、「6.3.4 定義済み情報」の項目を参照してください。



ファイルスクリーンテンプレート画面で表示される項目一覧は次の通りです。

なお、項目一覧は一覧を右クリックし表示されるポップアップメニューより「列の追加と削除」で表示される画面にて追加/削除が可能です。



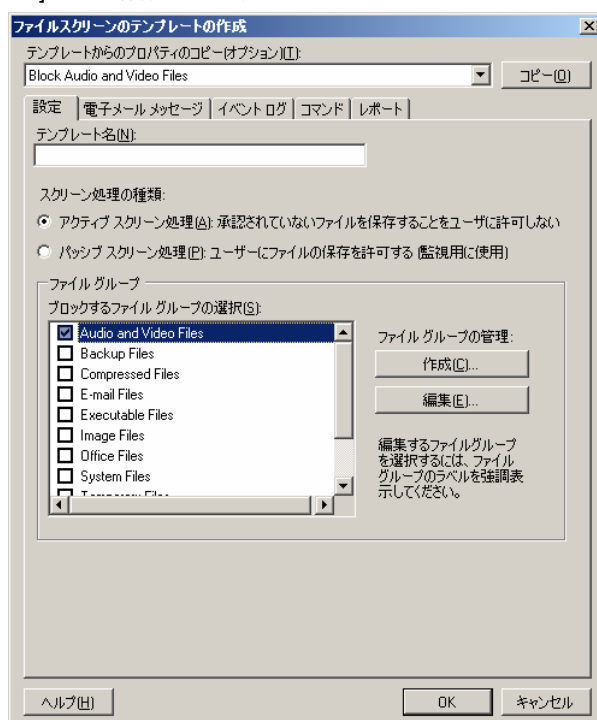
項目	説明
アイコン	アイコンが表示されます。
ファイルスクリーンのテンプレート	ファイルスクリーンのテンプレート名が表示されます。
ファイルスクリーン処理の種類	承認されていないファイルの書き込みが不可能な <b>アクティブ</b> スクリーン処理・承認されていないファイルの書き込みも可能な <b>パッシブ</b> スクリーン処理のどちらが選択されているかが表示されます。
ファイルグループ	選択されているファイルのグループが表示されます。

また、任意の列（項目）をクリックすることで、ソートすることも可能です。

### 6.3.2.1 ファイルスクリーン テンプレートを作成

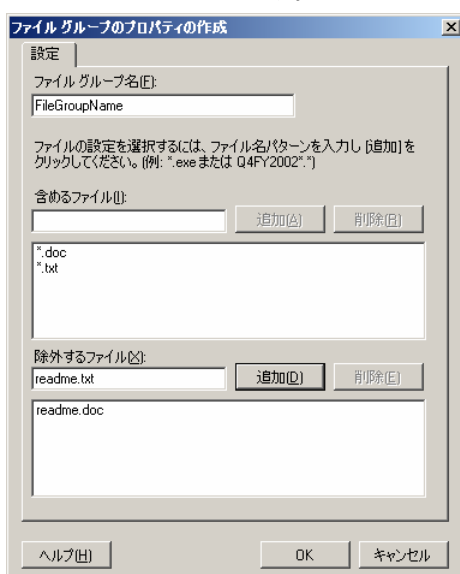
新規にファイルスクリーンテンプレートを作成するには、次の操作を行ないます。

1. **Windows Storage Server Management** から[ファイルサーバーの管理]→[ファイルサーバーリソースマネージャ]→[ファイルスクリーンの管理]→[ファイルスクリーンテンプレート]をクリックします。
2. 操作の一覧で[ファイルスクリーンテンプレートを作成] をクリックします。
- 2-1. [設定]項目で作成するファイルスクリーンテンプレートを設定します。



項目	説明
テンプレートからのプロパティのコピー	テンプレート一覧より選択し[コピー]ボタンをクリックすると選択したテンプレートの設定が[設定]タブの設定内容にコピーされます。
テンプレート名	テンプレート名を設定します。
アクティブスクリーン処理	許可していないファイルを保存することは不可能と設定します。
パッシブスクリーン処理	許可していないファイルも保存することを可能と設定します。
[作成]ボタン	ファイルグループを追加します。
[編集]ボタン	選択したファイルグループを編集します。

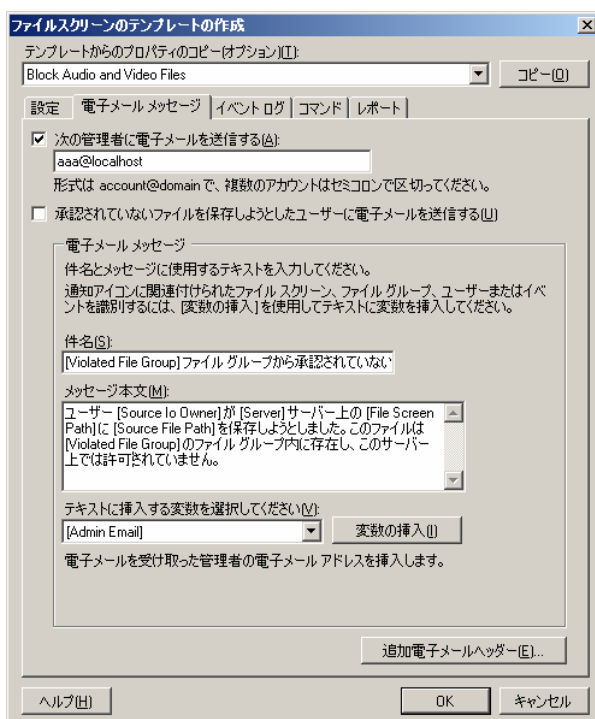
2-1-1.[ブロックするファイルグループの選択]項目を選択します。また、ファイルグループを新規に作成する場合は[作成]ボタンを、既に作成済みのファイルグループを編集する場合は[編集]ボタンをクリックし画面を表示します。



項目	説明
ファイルグループ名	作成するファイルグループ名を設定します。
含めるファイル	書き込みさせないファイルを指定します。 ファイル指定は、名前、または拡張子、あるいはその両方でスクリーニングできます。例えば拡張子 *.mp3 を指定すると、すべてのmp3ファイルがスクリーニングされ、書き込みできないようにブロックされます。 グループに含めるファイルを入力し、[追加]ボタンをクリックすることにより一覧へ追加します。また削除する場合は一覧より選択し、[削除]ボタンをクリックします。

項目	説明
除外するファイル	<p>“含めるファイル”にて設定しているファイルに対し、その一部を許可したい場合に指定します。</p> <p>例えば、“許可しないファイル”で、*.mp3と指定し、“許可するファイル”で、test.mp3と指定した場合、test.mp3だけは、書き込み等が許可されます。</p> <p>グループから除外するファイルを入力し、[追加]ボタンをクリックすることにより一覧へ追加します。また削除する場合は一覧より選択し、[削除]ボタンをクリックします。</p>

2-2. [電子メールメッセージ]項目でファイルスクリーンが動作した際、管理者宛に電子メールを送信するかを設定します。送信する場合、メールアドレスを設定します。



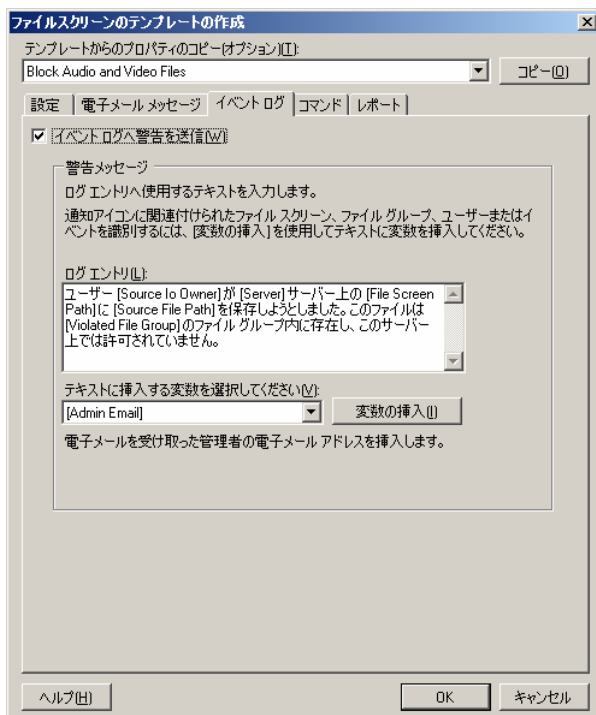
項目	説明
次の管理者に電子メールを送信する	管理者に電子メールを送信する場合に設定します。その場合、配下の入力フィールドにメールアドレスを設定します。
承認されていないファイルを保存しようとしたユーザーに電子メールを送信する	対象ユーザーへ電子メールを送信する場合に設定します。
件名	電子メールのタイトルを設定します。
メッセージ本文	電子メールの本文を設定します。

項目	説明
テキストに挿入する変数を 選択してください	リストに表示される変数を[変数の挿入]ボタンで[管理者の電子メールアドレス]入力フィールド、[件名]、[メッセージ本文]の項目に設定します。
追加電子メールヘッダー	電子メールのヘッダーを変更する場合、設定します。

2-2-1.[追加電子メールヘッダー]ボタンで[追加電子メールヘッダー]画面を表示します。

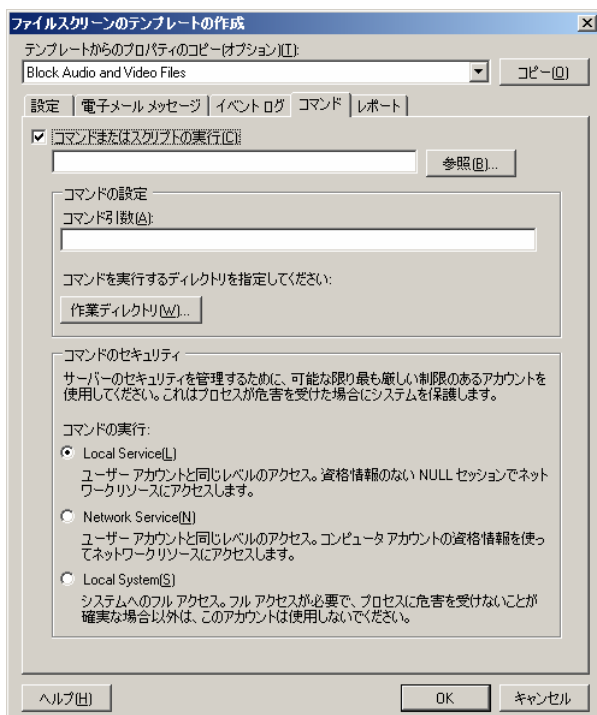
項目	説明
差出人	差出人の電子メールアドレスをを設定します。
Cc	Ccで送信する電子メールアドレスをを設定します。
Bcc	Bccで送信する電子メールアドレスをを設定します。
返信先	返信先の電子メールアドレスをを設定します。
テキストに挿入する変数 を選択してください	リストに表示される変数を[変数の挿入]ボタンで上記の設定項目に設定します。

2-3. [イベントログ]項目で警告メッセージをイベントログ(アプリケーション)へ警告メッセージを表示するかを設定します。



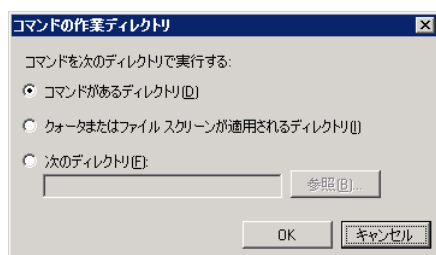
項目	説明
イベントログへ警告を送信	イベントログへ警告メッセージを送信する場合に設定します。
ログエントリ	警告メッセージで表示する内容を設定します。
テキストに挿入する変数を選択してください	リストに表示される変数を[変数の挿入]ボタンで上記の設定項目に設定します。

2-4. [コマンド]項目でファイルスクリーンが動作した際、コマンドを実行するかを設定します。実行する場合、コマンドへのフルパスを設定します。




項目	説明
コマンドまたはスクリプトの実行	実行するコマンド、スクリプトを設定します。
コマンド引数	コマンドに引数がある場合、設定します。
[作業ディレクトリ]ボタン	作業ディレクトリを指定する画面を表示します。
コマンドの実行	セキュリティレベルを設定します。  Local Service, Network Service, Local Systemから選択します。

2-4-1.[作業ディレクトリ]ボタンをクリックし表示される[コマンドの作業ディレクトリ]画面で作業フォルダを設定します。

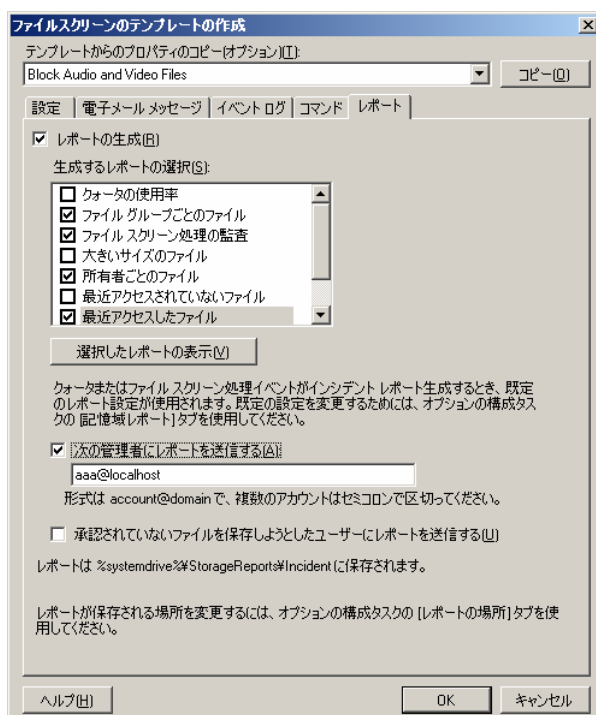


2-4-2.[コマンドのセキュリティ]では実行コマンドのセキュリティレベルを以下の3点より選択し設定します。

- Local Service
- Network Service
- Local System

 "Local Service"及び"Network Service"を選択する場合、対象フォルダのアクセス権にUsersグループ"ファイルの作成/データの書き込み"権限が設定されているとセキュリティ上、動作しません。また"書き込み"以上の権限を設定した場合も同様です。それぞれに対応する"Local Service"アカウント、"Network Service"アカウントをご利用することを推奨します。

2-5. [レポート]項目でファイルスクリーンが動作した際、レポートを作成するかを設定します。作成する場合、生成するレポートを設定します。





項 目	説 明
レポートの生成	レポートを生成する場合に設定します。その場合、配下の[生成するレポートの選択]項目で生成するレポートを選択します。
[選択したレポートの表示]ボタン	[生成するレポートの選択]項目で選択したレポートを表示します。
次の管理者にレポートを送信する	管理者に電子メールでレポートを送信する場合に設定します。その場合、配下の入力フィールドにメールアドレスを設定します。
承認されていないファイルを保存しようとしたユーザーにレポートを送信する	対象ユーザーへ電子メールでレポートを送信する場合に設定します。

2-5-1.[レポート]-[生成するレポートの選択]項目でレポートを選択します。また、[選択したレポートの表示]ボタンをクリックすると現在選択中のレポート内容が表示されます。

2-6. 設定が全て完了したら[OK]ボタンをクリックします。

### 6.3.2.2 更新

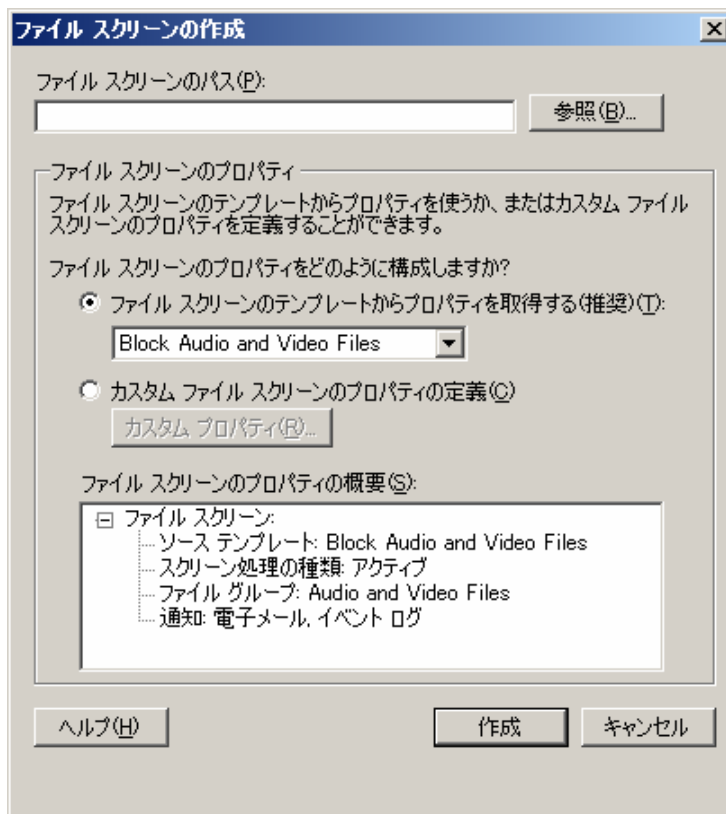
ファイルスクリーンテンプレート一覧表示の情報を更新し最新の状態へするには次の操作を行ないます。

1. **Windows Storage Server Management** から[ファイルサーバーの管理]→[ファイルサーバーリソースマネージャ]→[ファイルスクリーンの管理]→[ファイルスクリーンテンプレート]をクリックします。
2. 操作の一覧で[更新] をクリックします。

### 6.3.2.3 テンプレートからファイルスクリーンを作成

指定するフォルダに対しテンプレートからファイルスクリーンを作成するには、次の操作を行います。

1. **Windows Storage Server Management** から[ファイルサーバーの管理]→[ファイルサーバーリソースマネージャ]→[ファイルスクリーンの管理]→[ファイルスクリーン]をクリックします。
2. 操作の一覧で[ファイルスクリーンの作成]をクリックし[ファイルスクリーンの作成]画面を表示します。
3. [ファイルスクリーンのパス]項目で作成するフォルダを設定し、[作成]ボタンをクリックします。  
なお、ファイルスクリーンテンプレートに変更を加えてファイルスクリーンを作成する事も可能です。

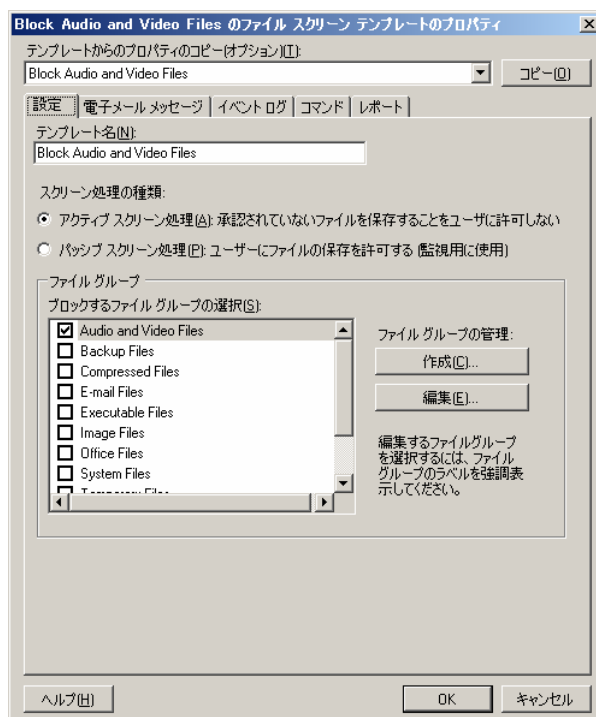


項 目	説 明
ファイルスクリーンのパス	ファイルスクリーンを設定するフォルダのフルパスを設定します。
クォータのプロパティをどのように構成しますか?	“ファイルスクリーンのテンプレートからプロパティを取得する”および“カスタムファイルスクリーンのプロパティの定義”から選択します。
ファイルスクリーンのテンプレートからプロパティを取得する	配下の一覧より項目を選択します。
カスタムファイルスクリーンのプロパティの定義	[カスタムプロパティ]ボタンをクリックし、設定を行ないます。
ファイルスクリーンのプロパティの概要	設定されたプロパティが表示されます。
[作成]ボタン	上記項目にて設定した条件でクォータを作成します。

### 6.3.2.4 テンプレートのプロパティの編集

選択中のファイルスクリーンテンプレートのプロパティを編集するには、次の操作を行ないます。

1. Windows Storage Server Management から[ファイルサーバーの管理]→[ファイルサーバーリソースマネージャ]→[ファイルスクリーンの管理]→[ファイルスクリーン]をクリックします。
2. 操作の一覧で[ファイルスクリーンのプロパティの編集] をクリックします。
3. 選択したファイルスクリーンテンプレートの設定内容を変更し[OK]ボタンをクリックします。



項目	説明
テンプレートからのプロパティのコピー	テンプレート一覧より選択し[コピー]ボタンをクリックすると選択したテンプレートの設定が[設定]タブの設定内容にコピーされます。
テンプレート名	テンプレート名を設定します。
アクティブスクリーン処理	許可していないファイルを保存することは不可能と設定します。
パッシブスクリーン処理	許可していないファイルも保存することを可能と設定します。
[作成]ボタン	ファイルグループを追加します。
[編集]ボタン	選択したファイルグループを編集します。

### 6.3.2.5 テンプレートの削除

選択中のファイルスクリーンテンプレートを削除するには、次の操作を行ないます。

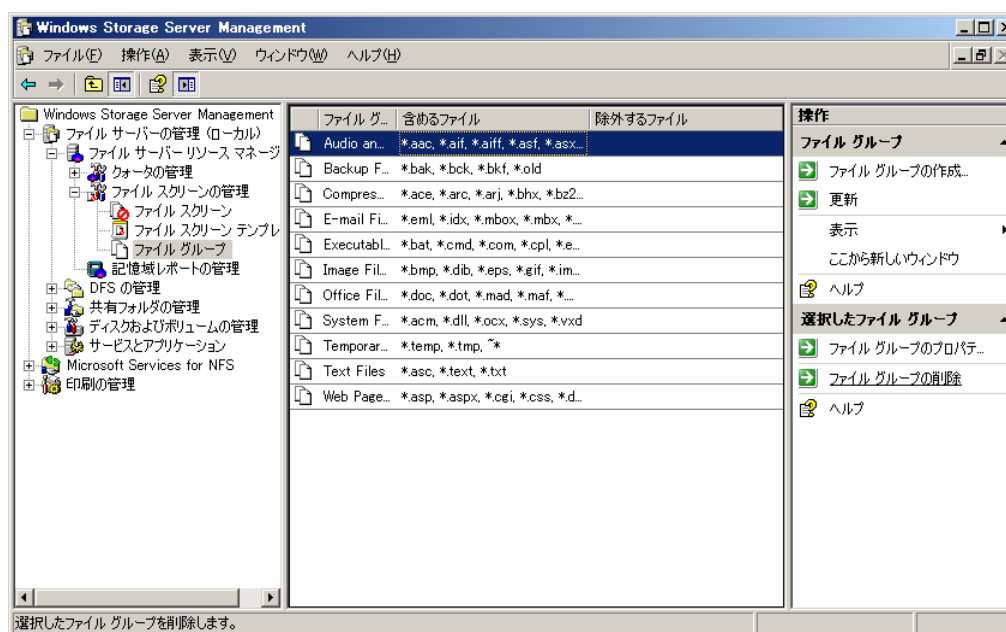
1. Windows Storage Server Management から[ファイルサーバーの管理]→[ファイルサーバーリソースマネージャ]→[ファイルスクリーンの管理]→[ファイルスクリーンテンプレート]をクリックします。
2. 操作の一覧で[削除] をクリックします。

### 6.3.3 ファイルグループ

ファイルグループは、含めるファイルおよび除外するファイルのセットで構成されています。たとえば、グラフィックファイルというグループに、\*.jpg \*.bmp を含め、ファイル important.jpg を除外することで important.jpg 以外のファイルを抽出することが可能です。なお、ファイルグループには予め定義済みのグループのセットが含まれていますが、定義済みファイルグループの編集や新たにファイルグループを作成することが可能です。

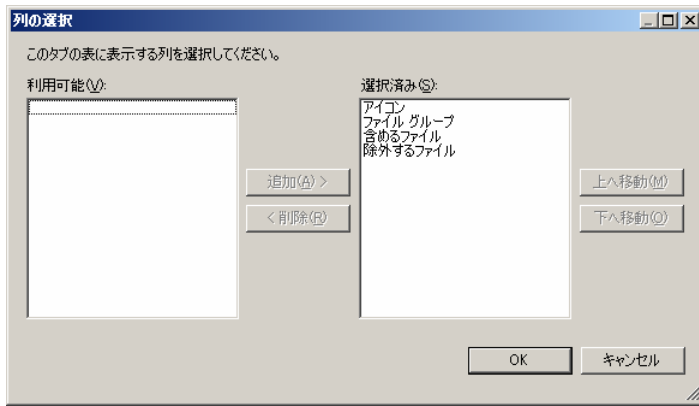
ファイルグループは、含めるファイルの種類および除外するファイルの種類を定義するファイルスクリーンテンプレート内で使用されます。

ファイルグループは、あらかじめ 11 のグループが定義されていますが、新規にカスタマイズしたものを作成することができます。定義済みのファイルグループの詳細については、「6.3.4 定義済み情報」の項目を参照してください。



ファイルグループ画面で表示される項目一覧は次の通りです。

なお、項目一覧は一覧を右クリックし表示されるポップアップメニューより「列の追加と削除」で表示される画面にて追加/削除が可能です。



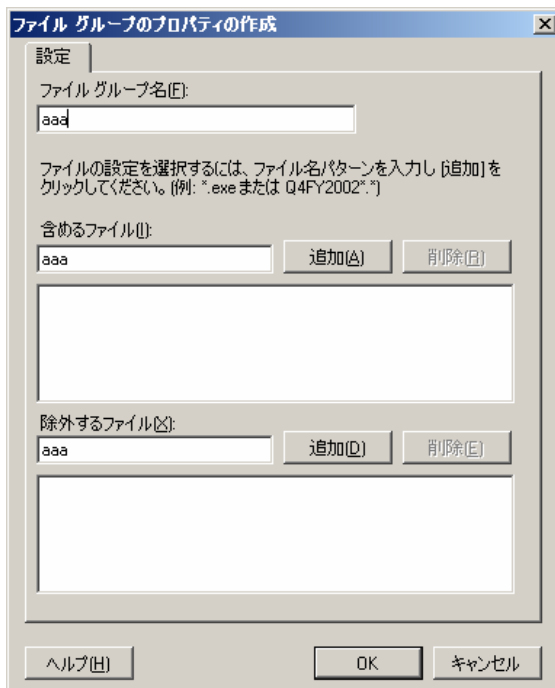
項目	説明
アイコン	アイコンが表示されます。
ファイルグループ	選択されているファイルのグループが表示されます。
含めるファイル	含めるファイルに設定した内容が表示されます。
除外するファイル	除外するファイルに設定した内容が表示されます。

また、任意の列（項目）をクリックすることで、ソートすることも可能です。

### 6.3.3.1 ファイルグループの作成

ファイルグループを作成するには、次の操作を行ないます。

1. Windows Storage Server Management から[ファイルサーバーの管理]→[ファイルサーバーリソースマネージャ]→[ファイルスクリーンの管理]→[ファイルグループ]をクリックします。
2. 操作の一覧で[ファイルグループの作成]をクリックします。



項 目	説 明
ファイルグループ名	作成するファイルグループ名を設定します。
含めるファイル	書き込みさせないファイルを指定します。 ファイル指定は、名前、または拡張子、あるいはその両方でスクリーニングできます。例えば拡張子 *.mp3 を指定すると、すべてのmp3ファイルがスクリーニングされ、書き込みできないようにブロックされます。 グループに含めるファイルを入力し、[追加]ボタンをクリックすることにより一覧へ追加します。また削除する場合は一覧より選択し、[削除]ボタンをクリックします。
除外するファイル	“含めるファイル”にて設定しているファイルに対し、その一部を許可したい場合に指定します。 例えば、“許可しないファイル”で、*.mp3と指定し、“許可するファイル”で、test.mp3と指定した場合、test.mp3だけは、書き込み等が許可されます。 グループから除外するファイルを入力し、[追加]ボタンをクリックすることにより一覧へ追加します。また削除する場合は一覧より選択し、[削除]ボタンをクリックします。

### 6.3.3.2 更新

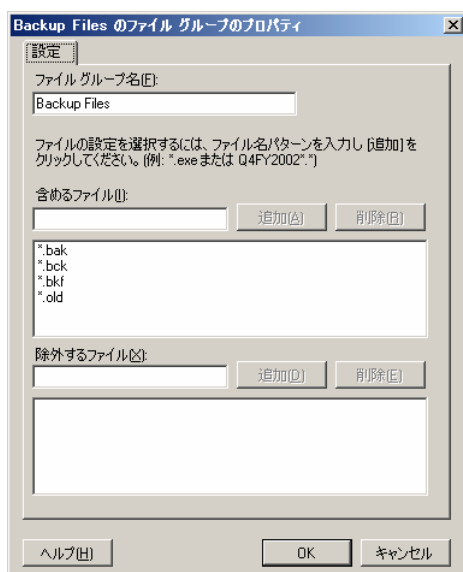
作成したファイルグループの情報を更新し最新の状態へするには、次の操作を行ないます。

1. Windows Storage Server Management から[ファイルサーバーの管理]→[ファイルサーバーリソースマネージャ]→[ファイルスクリーンの管理]→[ファイルグループ]をクリックします。
2. 操作の一覧で[更新] をクリックします。

### 6.3.3.3 ファイルグループのプロパティの編集

選択中のファイルグループを変更するには、次の操作を行ないます。

1. Windows Storage Server Management から[ファイルサーバーの管理]→[ファイルサーバーリソースマネージャ]→[ファイルスクリーンの管理]→[ファイルグループ]をクリックします。
2. 操作の一覧で[ファイルグループのプロパティの編集] をクリックします。



項目	説明
ファイルグループ名	作成するファイルグループ名を設定します。
含めるファイル	書き込みさせないファイルを指定します。 ファイル指定は、名前、または拡張子、あるいはその両方でスクリーニングできます。例えば拡張子 *.mp3 を指定すると、すべてのmp3ファイルがスクリーニングされ、書き込みできないようにブロックされます。 グループに含めるファイルを入力し、[追加]ボタンをクリックすることにより一覧へ追加します。また削除する場合は一覧より選択し、[削除]ボタンをクリックします。
除外するファイル	“含めるファイル”にて設定しているファイルに対し、その一部を許可したい場合に指定します。 例えば、“許可しないファイル”で、*.mp3と指定し、“許可するファイル”で、test.mp3と指定した場合、test.mp3だけは、書き込み等が許可されます。グループから除外するファイルを入力し、[追加]ボタンをクリックすることにより一覧へ追加します。また削除する場合は一覧より選択し、[削除]ボタンをクリックします。

#### 6.3.3.4 ファイルグループの削除

選択中のファイルグループを削除するには、次の操作を行います。

1. Windows Storage Server Management から[ファイルサーバーの管理]→[ファイルサーバーリソースマネージャ]→[ファイルスクリーンの管理]→[ファイルグループ]をクリックします。
2. 操作の一覧で[ファイルグループの削除] をクリックします。

### 6.3.4 定義済み情報

予め定義されているファイルスクリーンテンプレート、ファイルグループ、メッセージ マクロについての情報を示します。

#### ファイルスクリーンテンプレート

定義済みファイルスクリーンテンプレート名と、設定内容一覧は以下の通りです。

ファイルスクリーンテンプレート名	スクリーン処理の種類	ファイルグループ	その他設定
Block Audio and Video Files	アクティブ	Audio and Video Files	管理者への電子メール：オフ ユーザーへの電子メール：オン タイトル：オフ メッセージ本文： イベントログへ送信： ログエントリ： コマンド：オフ レポート：オフ
Block E-mail Files	アクティブ	E-mail Files	管理者への電子メール：オフ ユーザーへの電子メール：オン タイトル：オフ メッセージ本文： イベントログへ送信： ログエントリ： コマンド：オフ レポート：オフ
Block Executable Files	アクティブ	Executable Files	管理者への電子メール：オフ ユーザーへの電子メール：オン タイトル：オフ メッセージ本文： イベントログへ送信： ログエントリ： コマンド：オフ レポート：オフ



## ファイルサーバーリソースマネージャ

ファイルスクリーンテンプレート名	スクリーン処理の種類	ファイルグループ	その他設定
Block Image Files	アクティブ	Image Files	管理者への電子メール：オフ ユーザーへの電子メール：オン タイトル：オフ メッセージ本文： イベントログへ送信： ログエントリ： コマンド：オフ レポート：オフ
Monitor Executable and System Files	パッシブ	Executable Files System Files	管理者への電子メール：オフ ユーザーへの電子メール：オン タイトル：オフ メッセージ本文： イベントログへ送信： ログエントリ： コマンド：オフ レポート：オフ

### ファイルグループ

定義済みファイルグループと、設定内容一覧は以下の通りです。

ファイルグループ名	含めるファイル	除外するファイル
Audio and Video Files	*.aac , *.aif , *.aiff , *.asf , *.asx , *.au , *.avi , *.flac , *.m3u , *.mid , *.midi , *.mov , *.mp1 , *.mp2 , *.mp3 , *.mp4 , *.mpa , *.mpe , *.mpeg , *.mpeg2 , *.mpeg3 , *.mpg , *.ogg , *.qt , *.qtw , *.ram , *.rm , *.rmi , *.rmvb , *.snd , *.swf , *.vob , *.wav , *.wax , *.wma , *.wmv , *.wvx	なし
Backup Files	*.bak , *.bck , *.bkf , *.old	なし
Compressed Files	*.ace , *.arc , *.arj , *.bhz , *.bz2 , *.cab , *.gz , *.gzip , *.hpk , *.hqx , *.jar , *.lha , *.lzh , *.lzx , *.pak , *.pit , *.rar , *.sea , *.sit , *.sqz , *.tgz , *.uu , *.uue , *.z , *.zip , *.zoo	なし
E-mail Files	*.eml , *.idx , *.mbox , *.mbx , *.msg , *.ost , *.otf , *.pab , *.pst	なし
Executable Files	*.bat , *.cmd , *.com , *.cpl , *.exe , *.inf , *.js , *.jse , *.msh , *.msi , *.msp , *.ocx , *.pif , *.pl , *.scr , *.vb , *.vbs , *.wsf , *.wsh	なし
Image Files	*.bmp , *.dib , *.eps , *.gif , *.img , *.jfif , *.jpe , *.jpeg , *.jpg , *.pcx ,	なし

## ファイルサーバーリソースマネージャ

ファイルグループ名	含めるファイル	除外するファイル
	*.png , *.ps , *.psd , *.raw , *.rif , *.spiff , *.tif , *.tiff	
Office Files	*.doc , *.dot , *.mad , *.maf , *.mda , *.mdb , *.mdm , *.mdt , *.mdw , *.mdz , *.mpd , *.mpp , *.mpt , *.pot , *.ppa , *.pps , *.ppt , *.pwz , *.rqy , *.rtf , *.rwz , *.slk , *.vdx , *.vsd , *.vsl , *.vss , *.vst , *.vsu , *.vsw , *.vtx , *.wbk , *.wri , *.xla , *.xlb , *.xlc , *.xld , *.xlk , *.xll , *.xlm , *.xls , *.xlt , *.xlv , *.xlw	なし
System Files	*.acm , *.dll , *.ocx , *.sys , *.vxd	なし
Temporary Files	*.temp , *.tmp , ~*	なし
Text Files	*.asc , *.text , *.txt	なし
Web Page Files	*.asp , *.aspx , *.cgi , *.css , *.dhtml , *.hta , *.htm , *.html , *.mht , *.php , *.php3 , *.shtml , *.url	なし

### メッセージ マクロ

メッセージ マクロとは、電子メールメッセージやイベントログへメッセージを出力する際、システムで得られる情報を含めるために使用します。

メッセージ マクロを挿入するには、挿入したい場所にカーソルを合わせ、挿入マクロからプルダウンボックスで表示されるメッセージ マクロを選択することで挿入します。

内容は通知メッセージが通知される際に、システムで得られる情報に置換されます。

挿入して使用可能なメッセージ マクロの設定内容一覧は以下の通りです。

なお、メッセージ マクロは予め定義されたものであり設定を変更することは出来ません。

マクロ名	説明
[Admin Email]	電子メールを受け取った管理者の電子メールアドレス
[File Screen Path]	ファイルスクリーンのパス
[File Screen Remote Paths]	ファイルスクリーンのリモートパス UNC形式(\\\$server\$share\$)
[File Screen System Path]	ファイルスクリーンのパス 標準形式(\\\$?¥VolumeGUID¥)
[Server Domain]	通知の発生したサーバーのドメイン
[Server]	この通知の発生したサーバー
[Source File Owner Email]	承認されていないファイルの所有者の電子メールアドレス
[Source File Owner]	承認されていないファイルの所有者のユーザー名
[Source File Path]	通知の原因となる承認されていないファイルのパス
[Source File Remote Paths]	通知の原因となるファイルのリモートパス UNC形式
[Source Io Owner Email]	通知の原因となるユーザーの電子メールアドレス
[Source Io Owner]	通知の原因となるファイル I/O の所有者
[Source Process Id]	通知の原因となるプロセスのPID
[Source Process Image]	通知の原因となるプロセスの実行可能ファイル
[Violated File Group]	通知の原因となる承認されていないファイルを含んだファイルグループ

### 6.3.5 コマンド情報

コマンドラインを使用してファイルスクリーンの設定を行なう場合は、**FileScrn** コマンドを使用します。  
詳細は、**FileScrn /?** を実行してヘルプを参照してください。

## 6.4 記憶域レポートの管理

記憶域レポートは、後述の【レポートについて】で記載している内容をレポート化し表示します。レポートは、インタラクティブに実行することや、定期的にスケジュールし実行することができます。出力は、既定のディレクトリに保存するほかに、ユーザーへ電子メールで送信することもできます。

記憶域レポートには、次の機能があります。


機 能
スケジュールされた記憶域レポート機能
電子メールによるメッセージ通知機能
イベントログへのメッセージ通知機能

### 【レポートについて】

レポートは、グループとして生成された記憶域レポートの定義済みの一覧です。記憶域レポートの機能では、次のレポートが用意されています。

レポート	説 明
クォータの使用率	ディスク領域の利用状況が一定のレベルを超えたクォータの一覧を表示します。このレポートを使って、クォータがまもなくレベルを超えるかをすばやく判断し適切な操作をとることができます。
ファイルグループごとのファイル	ファイルグループごとにファイルを一覧表示します。このレポートを使ってファイルグループの使用状況パターンを監視し、大量のディスク領域を占めているファイルグループをすばやく判断することができます。これはサーバーでどのようなファイルスクリーン処理ポリシーを構成するかを決定するのに役立ちます。
ファイルスクリーン処理の監査	指定した期間におけるサーバー上のファイルスクリーン処理の監査のイベントを一覧表示します。このレポートを使って、スクリーン処理ポリシーに違反しているアプリケーションやユーザーをすばやく判断することができます。
大きいサイズのファイル	指定したサイズ以上のファイルを一覧表示します。このレポートを使ってサーバー上で最も多くのディスク領域を消費しているファイルをすばやく判断することができます。これは、ディスク領域を大量に直ぐに空けるのに役立ちます。
所有者ごとのファイル	ファイルを所有するユーザー順にファイルを一覧表示します。このレポートを使って、サーバーのパターンを理解し、大量のディスク領域を使用しているユーザーをすばやく判断することができます。


レポート	説明
最近アクセスされていないファイル	最近アクセスされていないファイルを一覧表示します。このレポートを使って、古いファイルを削除するかアーカイブするかをすばやく判断することができます。これはあまり使われていないディスク領域を空けるのに役立ちます。
最近アクセスしたファイル	最近アクセスしたファイルを一覧表示します。このレポートを使って、常に利用することが必要な頻繁に使われたデータを判断することができます。
重複しているファイル	重複していると思われる (名前、サイズ、最終更新日時が同じ) ファイルを一覧表示します。このレポートを使って、重複により無駄となっているディスク領域をすばやく判断し、空けることができます。

 ファイルスクリーン処理の監査レポートを表示するためには[オプションの構成]項目にて予め[監査データベースにファイルスクリーン処理の動作状況を記録する] チェックボックスをオンにする必要があります。設定方法の詳細については、「6.1.1.4 ファイルスクリーンの監査」の項目を参照してください。

#### 【レポート形式について】

レポートの出力ファイル形式として以下の形式が用意されています。

項目	説明
DHTML	ファイルは、Dynamic HTML形式で出力されます。DHTML 形式では要約グラフや詳細情報が表示されます。
HTML	ファイルは、HTML 形式で出力されます。
XML	ファイルは XML 形式で出力されます。
CSV	ファイルは CSV 形式で出力されます。
テキスト	ファイルは テキスト形式で出力されます。

 CSV 形式のファイルは UTF-8 の文字コードを用い出力されます。このため、レポート形式を CSV 形式で作成したファイルを表示する際は UTF-8 に対応するアプリケーションをご利用ください。

**【出力されるレポート名について】**

出力されるレポートのファイル名の形式は、“レポート名 + 年月日 + 時分秒 + 拡張子” となります。

以下に、レポートに対応する、レポート名を示します。

レポート	レポート名
クォータの使用率	QuotaUsage**_
ファイルグループごとのファイル	FilesByType**_
ファイルスクリーン処理の監査	FileScreenAudit**_
大きいサイズのファイル	LargeFiles**_
所有者ごとのファイル	FilesbyOwner**_
最近アクセスされていないファイル	LeastRecentlyAccessed**_
最近アクセスしたファイル	MostRecentlyAccessed**_
重複しているファイル	DuplicateFiles**_

※\*\*には数値の番号が自動的に採番されます。

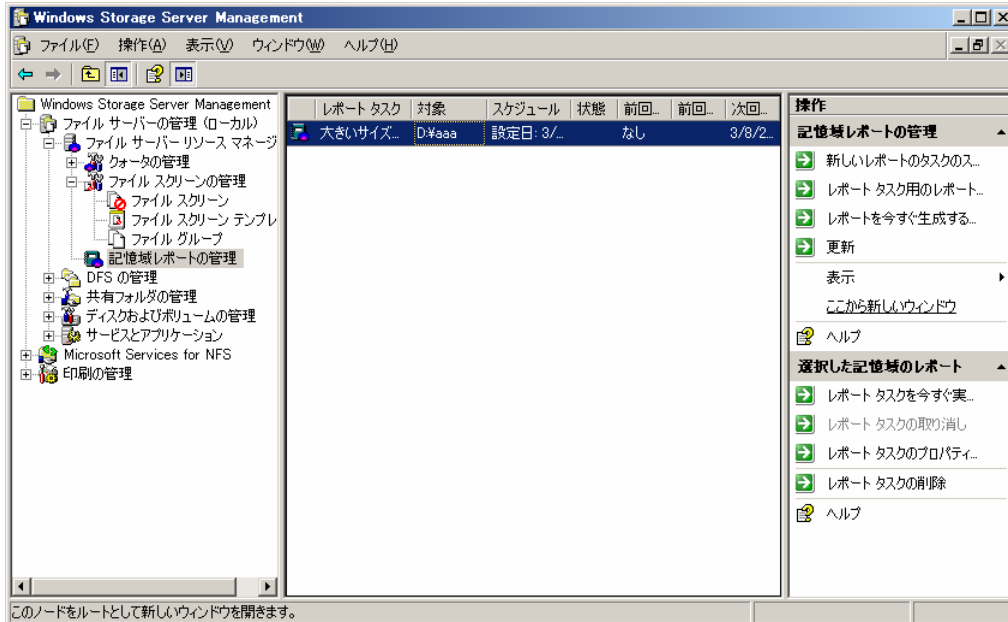
例) 概要のレポートセットのファイル名の例

FilesbyOwner22\_2006-01-25\_17-15-00.htm / FilesbyOwner22\_2006-01-25\_17-15-00.xml /

FilesByType19\_2006-01-25\_17-15-00.csv / FilesbyOwner22\_2006-01-25\_17-15-00.txt

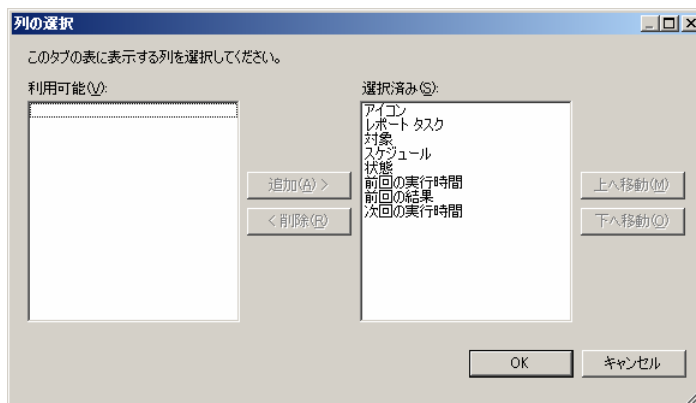
## 6.4.1 記憶域レポート

記憶域レポートにより、スケジュールやすぐに実行等で実際にレポートの作成を行ないます。



記憶域レポート画面で表示される項目一覧は次の通りです。

なお、項目一覧は一覧を右クリックし表示されるポップアップメニューより「列の追加と削除」で表示される画面にて追加/削除が可能です。



項目	説明
アイコン	アイコンが表示されます。指定したフォルダのみを対象とする場合とサブフォルダを含め対象とする場合で異なります。
レポートタスク	選択されたレポートタスクが表示されます。
対象	レポート対象となるフォルダが表示されます。

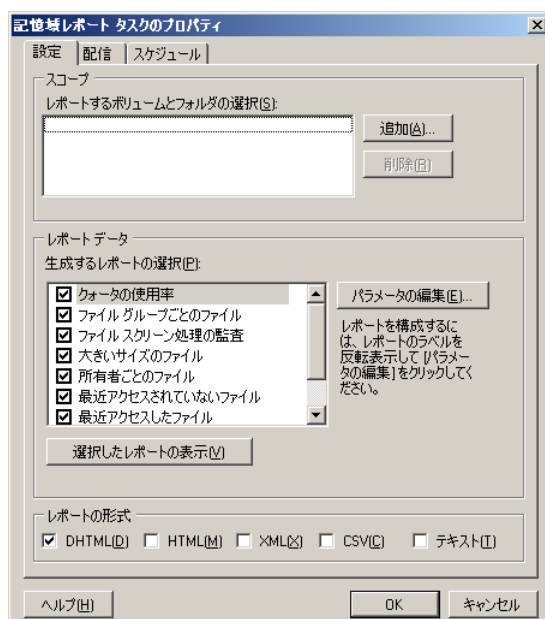
項目	説明
スケジュール	設定されているスケジュールが表示されます。
状態	現在の実行状態が表示されます。
前回の実行時間	前回実行された日時が表示されます。
前回の結果	前回の実行結果が表示されます。
次の実行時間	スケジュール済みの次回実行日時が表示されます。

また、任意の列（項目）をクリックすることで、ソートすることも可能です。

### 6.4.1.1 新しいレポートのタスクのスケジュール

新規に記憶域レポートを作成するには、次の操作を行ないます。

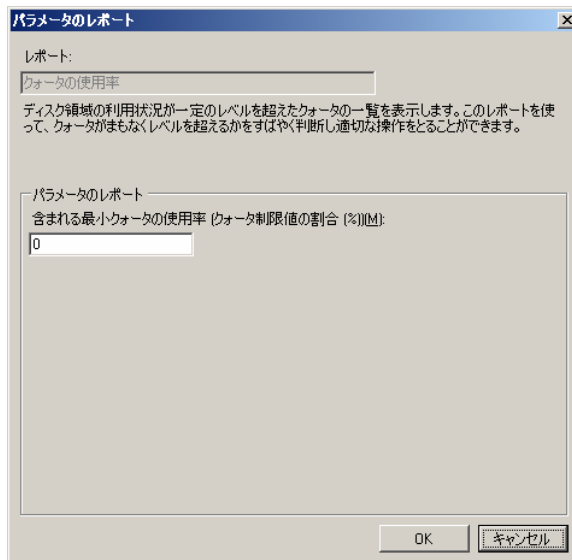
1. Windows Storage Server Management から[ファイルサーバーの管理]→[ファイルサーバーリソースマネージャ]→[記憶域レポートの管理]をクリックします。
2. 操作の一覧で[新しいレポートのタスクのスケジュール] をクリックします。
- 2-1. [設定]項目で作成する記憶域レポートを設定します。



項目	説明
レポートするボリュームとフォルダの選択	[追加]ボタンからレポート対象とするフォルダを設定します。また、[削除]ボタンで選択中の不要なフォルダを削除します。
[生成するレポートの選択]画面	各レポートが表示されます。
[パラメータの編集]ボタン	[生成するレポートの選択]画面で指定したレポートのパラメータ編集画面が表示されます。
[選択したレポートの表示]ボタン	設定したレポートの内容が表示されます。
レポートの形式	レポートのファイル形式を指定します。

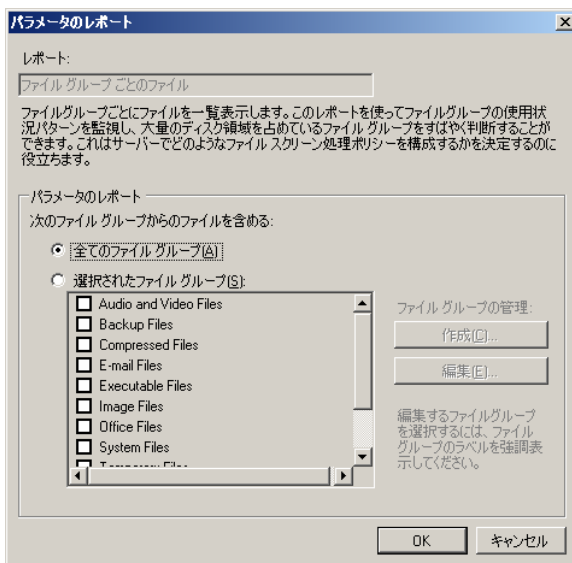


2-1-1. クォータ使用率の設定パラメータを変更する場合、“クォータの使用率” を選択後、[パラメータの編集]ボタンをクリックし[パラメータのレポート]画面を表示します。



項目	説明
含まれる最小クォータの使用率	レポート表示対象とするディスク領域の使用率を設定します。

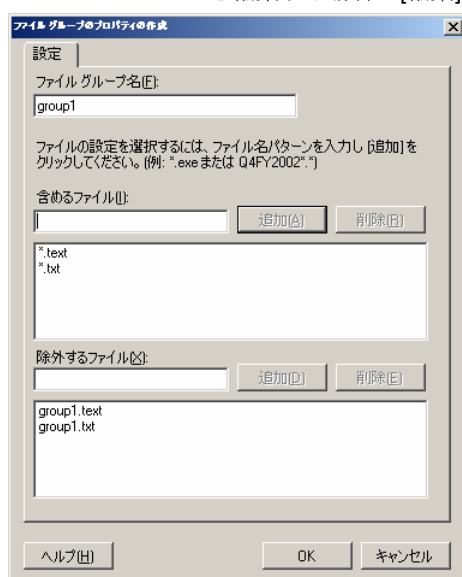
2-1-2. ファイルグループごとのファイルの設定パラメータを変更する場合、“ファイルグループごとのファイル” を選択後、[パラメータの編集]ボタンをクリックし[パラメータのレポート]画面を表示します。



項 目	説 明
次のファイルグループからのファイルを含める	[全てのファイルグループ]もしくは[選択されたファイルグループ]のどちらかを選択
選択されたファイルグループ	配下の一覧より項目を選択
作成ボタン	[選択されたファイルグループ]項目の一覧へグループを新規作成します。
編集ボタン	[選択されたファイルグループ]項目の一覧で指定したグループのパラメータ編集画面が表示されます。

2-1-2-1. [選択されたファイルグループ]項目を選択した場合、対象とするファイルを設定します。

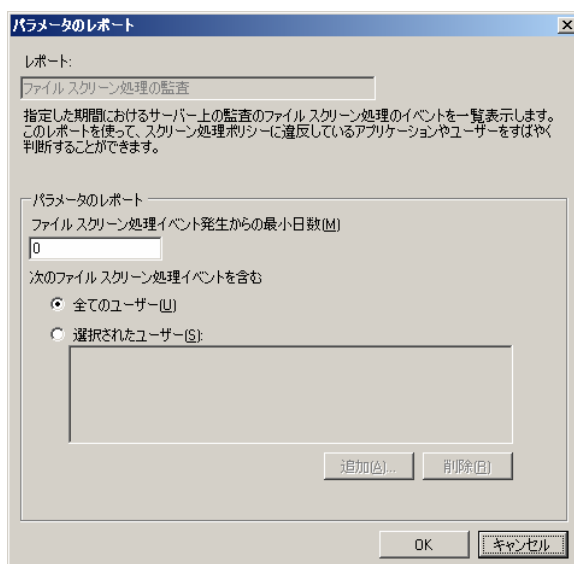
2-1-2-1-1. 新しくファイルグループを作成する場合は[作成]ボタンを、既に作成済みのファイルグループを編集する場合は[編集]ボタンをクリックし画面を表示します。



項 目	説 明
ファイルグループ名	作成するファイルグループ名を設定します。
含めるファイル	書き込みさせないファイルを指定します。 ファイル指定は、名前、または拡張子、あるいはその両方でスクリーニングできます。例えば拡張子 *.mp3 を指定すると、すべてのmp3ファイルがスクリーニングされ、書き込みできないようにブロックされます。 グループに含めるファイルを入力し、[追加]ボタンをクリックすることにより一覧へ追加します。また削除する場合は一覧より選択し、[削除]ボタンをクリックします。

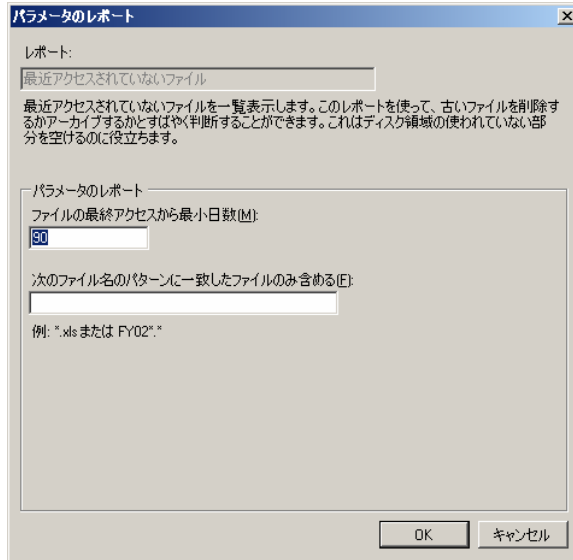
項目	説明
除外するファイル	<p>“含めるファイル”にて設定しているファイルに対し、その一部を許可したい場合に指定します。</p> <p>例えば、“許可しないファイル”で、*.mp3と指定し、“許可するファイル”で、test.mp3と指定した場合、test.mp3だけは、書き込み等が許可されます。グループから除外するファイルを入力し、[追加]ボタンをクリックすることにより一覧へ追加します。また削除する場合は一覧より選択し、[削除]ボタンをクリックします。</p>

2-1-3. ファイルスクリーン処理の監査の設定パラメータを変更する場合、“ファイルスクリーン処理の監査”を選択後、[設定]-[パラメータの編集]ボタンをクリックし[パラメータのレポート]画面を表示します。



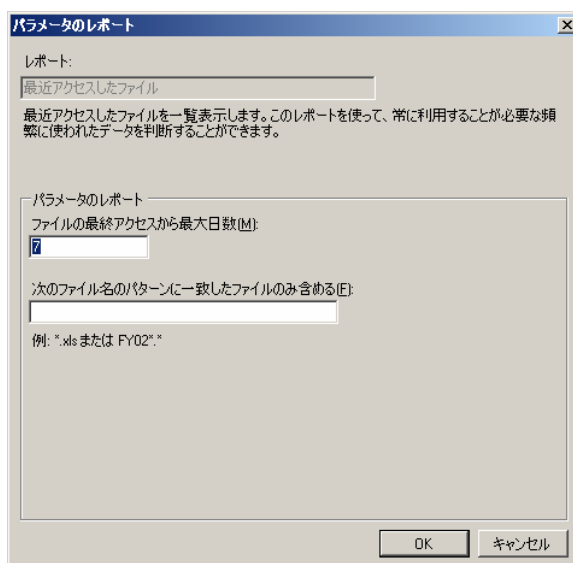
項目	説明
ファイルスクリーン処理イベント発生からの最小日数	ファイルスクリーン処理イベントが発生した日から何日目からを対象とするか設定します。
次のファイルスクリーン処理イベントを含む	[全てのファイルグループ]もしくは[選択されたファイルグループ]のどちらかを選択
選択されたユーザー	[追加]ボタンで対象ユーザーを追加、[削除]ボタンで対象ユーザーを削除します。

2-1-4.最近アクセスされていないファイルの設定パラメータを変更する場合、“最近アクセスされていないファイル”を選択後、[パラメータの編集]ボタンをクリックし[パラメータのレポート]画面を表示します。



項目	説明
ファイルの最終アクセスから最小日数	レポートに含める、ファイルの最終アクセス日からの最小日数を指定します。
次のファイル名のパターンに一致したファイルのみ含める	対象とするファイルのパターンがあれば指定します。

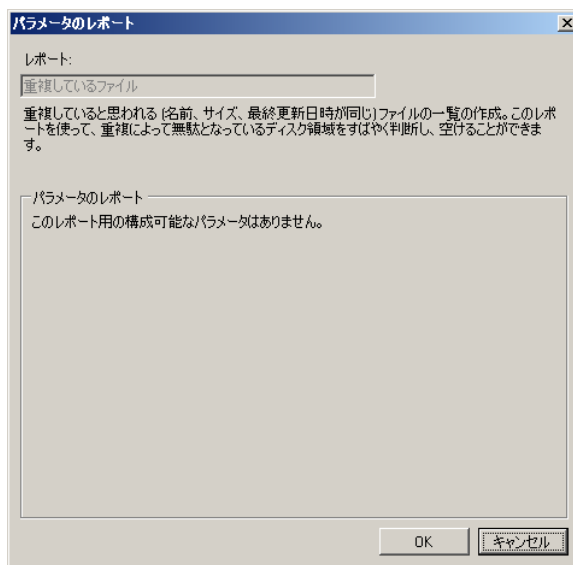
2-1-5.最近アクセスしたファイルの設定パラメータを変更する場合、“最近アクセスしたファイル”を選択後、[パラメータの編集]ボタンをクリックし[パラメータのレポート]画面を表示します。



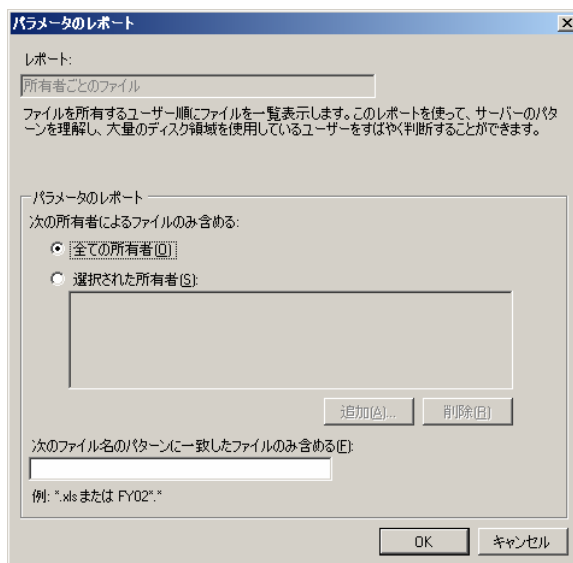
## ファイルサーバーリソースマネージャ

項目	説明
ファイルの最終アクセスから最大日数	レポートに含める、ファイルの最終アクセス日からの最大日数を指定します。
次のファイル名のパターンに一致したファイルのみ含める	対象とするファイルのパターンがあれば指定します。

2-1-6. 重複しているファイルの設定パラメータを変更する場合、“重複しているファイル”を選択後、[パラメータの編集]ボタンをクリックし[パラメータのレポート]画面を表示します。この項目にパラメータはありません。



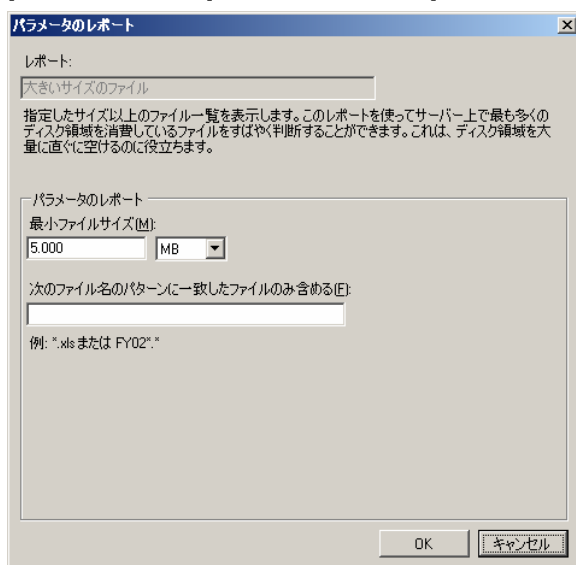
2-1-7. 所有者ごとのファイルの設定パラメータを変更する場合、“所有者ごとのファイル”を選択後、[パラメータの編集]ボタンをクリックし[パラメータのレポート]画面を表示します。



## ファイルサーバーリソースマネージャ

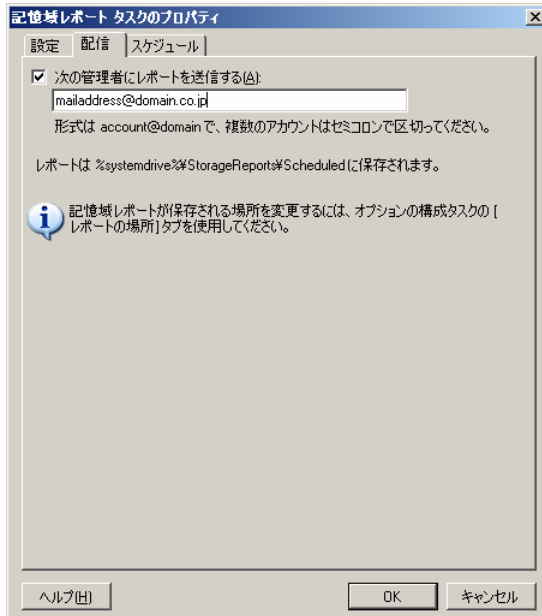
項 目	説 明
次の所有者によるファイルのみ含める	[全ての所有者]もしくは[選択された所有者]のどちらかを選択します。
選択された所有者	[追加]ボタンで対象ユーザーを追加、[削除]ボタンで対象ユーザーを削除します。
次のファイル名のパターンに一致したファイルのみ含める	対象とするファイルのパターンがあれば指定します。

2-1-8. 大きいサイズのファイルの設定パラメータを変更する場合、“大きいサイズのファイル”を選択後、  
[パラメータの編集]ボタンをクリックし[パラメータのレポート]画面を表示します。



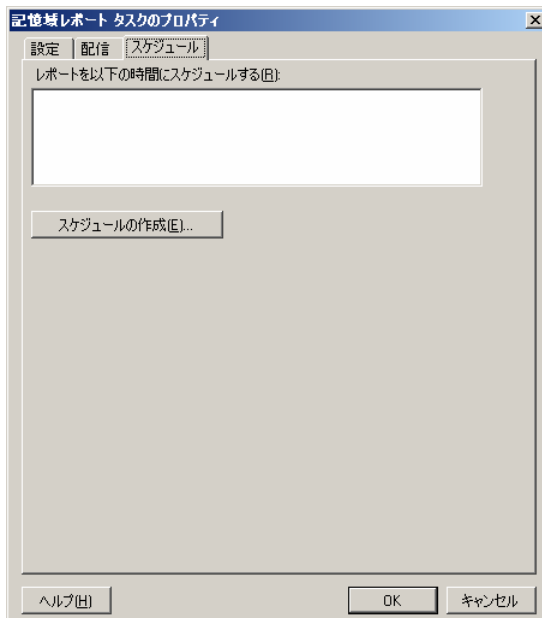
項 目	説 明
最小ファイルサイズ	レポートの対象とする最小のファイルサイズを指定します。
次のファイル名のパターンに一致したファイルのみ含める	対象とするファイルのパターンがあれば指定します。

2-2. [配信]項目で電子メールにて管理者へレポートを送信する場合、電子メールアドレスを設定します。



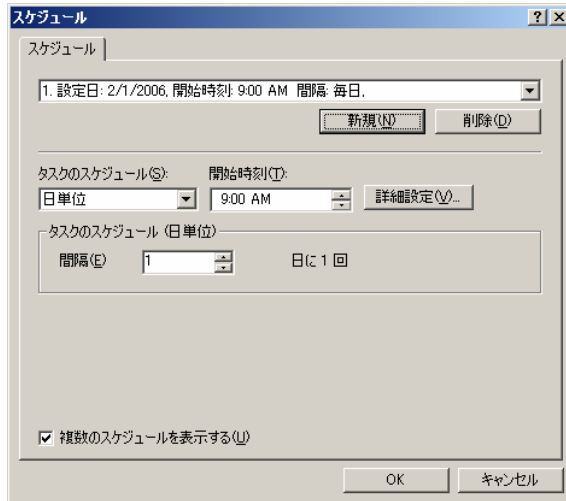
項目	説明
次の管理者にレポートを送信する	管理者に電子メールでレポートを送信する場合に設定します。その場合、配下の入力フィールドにメールアドレスを設定します。

2-3. [スケジュール]項目で記憶域レポートのスケジュールを設定します。



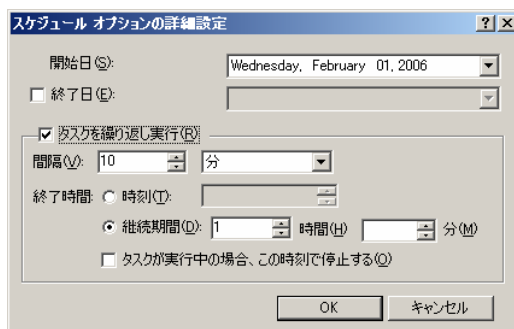
項目	説明
[スケジュールの作成]ボタン	スケジュール画面を表示します。

2-3-1.[スケジュールの作成]画面ボタンをクリックすると[スケジュール]画面が表示されレポートを出力するスケジュールを設定します。



項目	説明
スケジュールのリスト	設定済みのスケジュールが表示されます。
[新規]ボタン	新規にスケジュールを作成します。複数作成することも可能です。
[削除]ボタン	選択中のスケジュールが削除されます。
タスクのスケジュール	スケジュールの単位を選択します。
開始時刻	スケジュールの開始時刻を設定します。
[詳細設定]ボタン	[スケジュールオプションの詳細設定]画面を表示します。
間隔	日単位の間隔を設定します。
複数のスケジュールを表示する	[スケジュールのリスト]項目の表示が一覧表示に変更されます。

2-3-1-1. [詳細設定]ボタンにて[スケジュール オプションの詳細設定]画面を表示します。



項目	説明
開始日	スケジュール開始日を設定します。
終了日	スケジュール終了日を設定します。



## ファイルサーバーリソースマネージャ

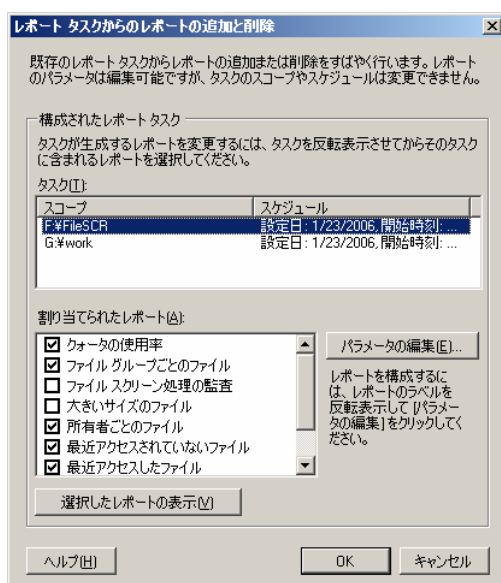
項目	説明
タスクを繰り返し実行	タスクを繰り返し実行する場合、選択し以下の項目で設定します。
間隔	スケジュールを繰り返す間隔を設定します。
終了時間	スケジュールを繰り返す場合の終了時間を[時刻]の指定もしくは[継続時間]の指定により設定します。
タスクが実行中の場合、この時刻で停止する	タスクが実行時は停止する場合、設定します。

2-4. 設定完了後、[OK]ボタンをクリックします。

### 6.4.1.2 レポートタスク用のレポートの追加と削除

既に作成済みの記憶域レポートタスクへ割り当てられたレポートを追加、削除する事が可能です。変更するには次の操作を行ないます。

1. Windows Storage Server Management から[ファイルサーバーの管理]→[ファイルサーバーリソースマネージャ]→[記憶域レポートの管理]をクリックします。
2. 操作の一覧で[レポートタスク用のレポートの追加と削除] をクリックすると[レポートタスクからのレポートの追加と削除]画面が表示されます。



項目	説明
タスク	レポートタスクの一覧から対象とするフォルダを選択します。
[割り当てられたレポート]画面	各タスクに対するレポートが表示されます。
[パラメータの編集]ボタン	[割り当てられたレポート]画面で指定したレポートのパラメータ編集画面が表示されます。

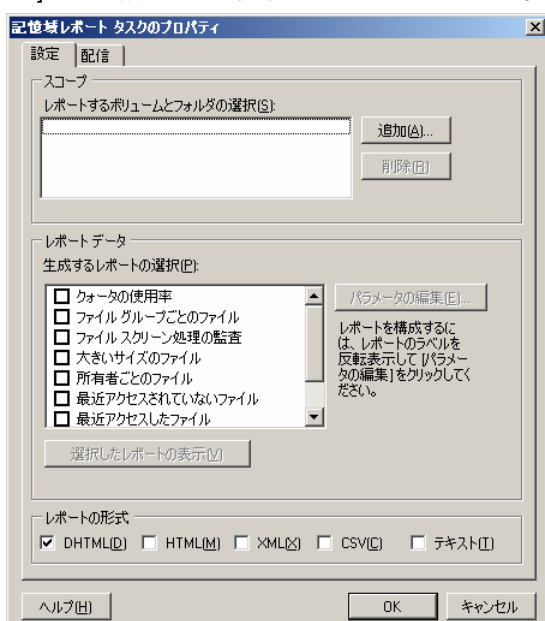
[選択したレポートの表示]ボタン	設定したレポートの内容が表示されます。
------------------	---------------------

3. [タスク]項目で設定済みのタスク一覧から対象タスクを選択します。
4. [割り当てられたレポート]項目で必要なレポートを選択し[OK]ボタンをクリックします。なお、[パラメータの編集ボタン]をクリックすると選択したレポートを編集することも可能です。

### 6.4.1.3 レポートを今すぐ生成する

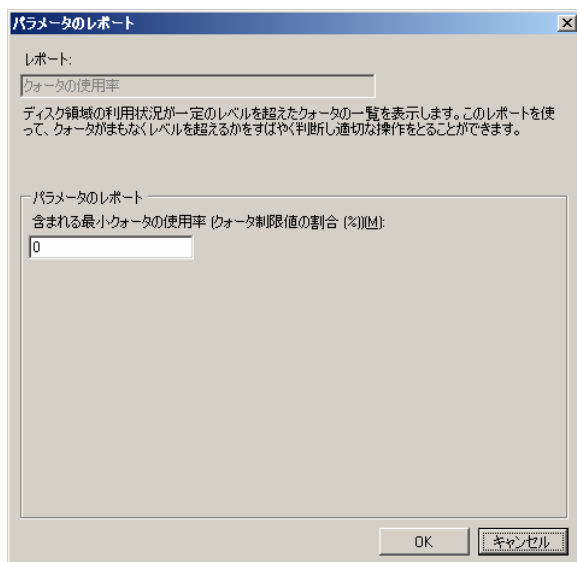
即実行する記憶域レポートを作成するには、次の操作を行ないます。

1. Windows Storage Server Management から[ファイルサーバーの管理]→[ファイルサーバーリソースマネージャ]→[記憶域レポートの管理]をクリックします。
2. 操作の一覧で[レポートを今すぐ生成する] をクリックします。
- 2-1. [設定]項目で作成する記憶域レポートを設定します。



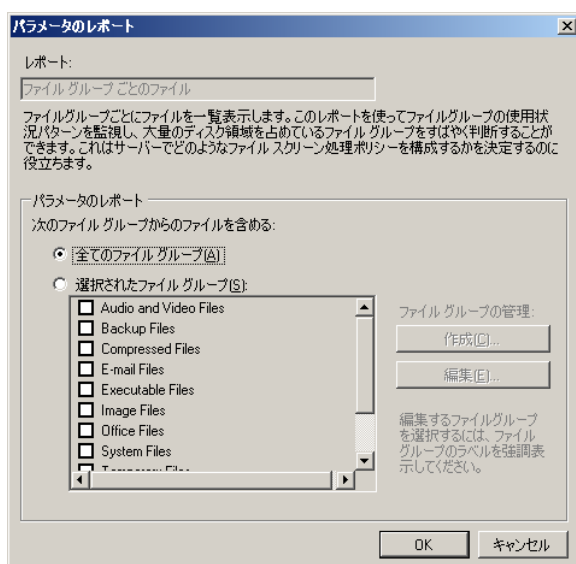
項 目	説 明
レポートするボリュームとフォルダの選択	レポート対象とするフォルダを設定します。
[生成するレポートの選択]画面	各レポートが表示されます。
[パラメータの編集]ボタン	[生成するレポートの選択]画面で指定したレポートのパラメータ編集画面が表示されます。
[選択したレポートの表示]ボタン	設定したレポートの内容が表示されます。
レポートの形式	レポートのファイル形式を指定します。

2-1-1. クォータ使用率の設定パラメータを変更する場合、“クォータの使用率” を選択後、[パラメータの編集]ボタンをクリックし[パラメータのレポート]画面を表示します。



項目	説明
含まれる最小クォータの使用率	レポート表示対象とするディスク領域の使用率を設定します。

2-1-2. ファイルグループごとのファイルの設定パラメータを変更する場合、“ファイルグループごとのファイル” を選択後、[パラメータの編集]ボタンをクリックし[パラメータのレポート]画面を表示します。



項目	説明
次のファイルグループからのファイルを含める	[全てのファイルグループ]もしくは[選択されたファイルグループ]のどちらかを選択

## ファイルサーバーリソースマネージャ

項目	説明
選択されたファイルグループ	配下の一覧より項目を選択
作成ボタン	[選択されたファイルグループ]項目の一覧へグループを新規作成します。
編集ボタン	[選択されたファイルグループ]項目の一覧で指定したグループのパラメータ編集画面が表示されます。

2-1-2-1. [選択されたファイルグループ]項目を選択した場合、対象とするファイルを設定します。

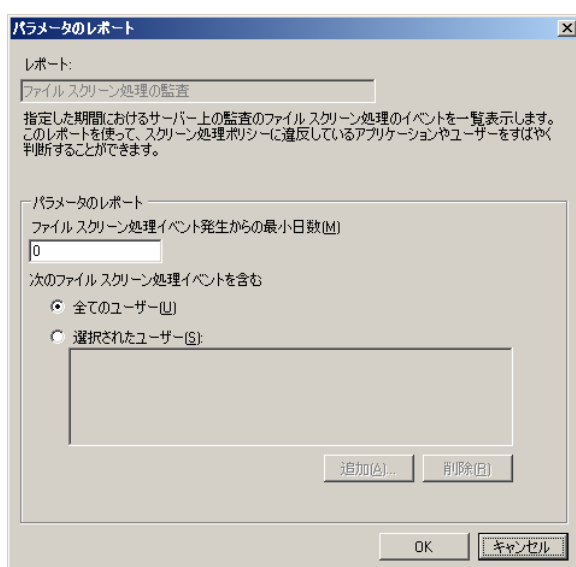
2-1-2-1-1. 新しくファイルグループを作成する場合は[作成]ボタンを、既に作成済みのファイルグループを編集する場合は[編集]ボタンをクリックし画面を表示します。

項目	説明
ファイルグループ名	作成するファイルグループ名を設定します。
含めるファイル	書き込みさせないファイルを指定します。 ファイル指定は、名前、または拡張子、あるいはその両方でスクリーニングできます。例えば拡張子 *.mp3 を指定すると、すべてのmp3ファイルがスクリーニングされ、書き込みできないようにブロックされます。 グループに含めるファイルを入力し、[追加]ボタンをクリックすることにより一覧へ追加します。また削除する場合は一覧より選択し、[削除]ボタンをクリックします。

## ファイルサーバーリソースマネージャ

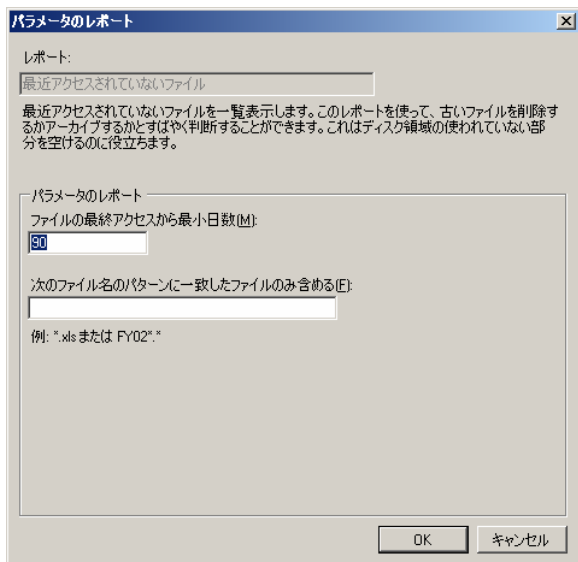
項目	説明
除外するファイル	<p>“含めるファイル”にて設定しているファイルに対し、その一部を許可したい場合に指定します。</p> <p>例えば、“許可しないファイル”で、*.mp3と指定し、“許可するファイル”で、test.mp3と指定した場合、test.mp3だけは、書き込み等が許可されます。</p> <p>グループから除外するファイルを入力し、[追加]ボタンをクリックすることにより一覧へ追加します。また削除する場合は一覧より選択し、[削除]ボタンをクリックします。</p>

2-1-3. ファイルスクリーン処理の監査の設定パラメータを変更する場合、“ファイルスクリーン処理の監査”を選択後、[パラメータの編集]ボタンをクリックし[パラメータのレポート]画面を表示します。



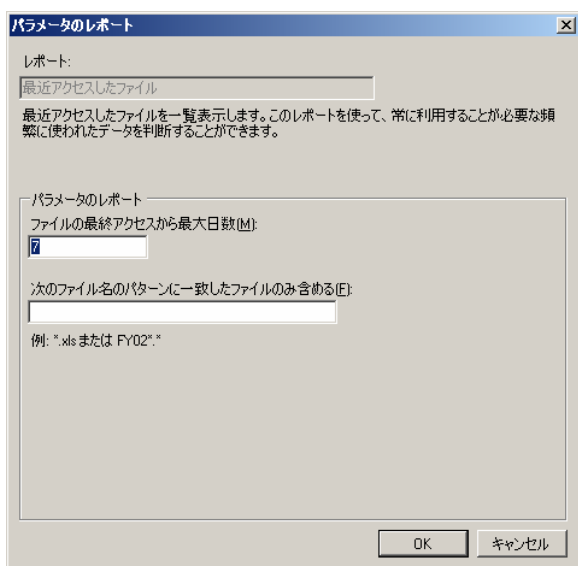
項目	説明
ファイルスクリーン処理イベント発生からの最小日数	ファイルスクリーン処理イベントが発生した日から何日目からを対象とするか設定します。
次のファイルスクリーン処理イベントを含む	[全てのファイルグループ]もしくは[選択されたファイルグループ]のどちらかを選択
選択されたユーザー	[追加]ボタンで対象ユーザーを追加、[削除]ボタンで対象ユーザーを削除します。

2-1-4.最近アクセスされていないファイルの設定パラメータを変更する場合、“最近アクセスされていないファイル”を選択後、[パラメータの編集]ボタンをクリックし[パラメータのレポート]画面を表示します。



項目	説明
ファイルの最終アクセスから最小日数	レポートに含める、ファイルの最終アクセス日からの最小日数を指定します。
次のファイル名のパターンに一致したファイルのみ含める	対象とするファイルのパターンがあれば指定します。

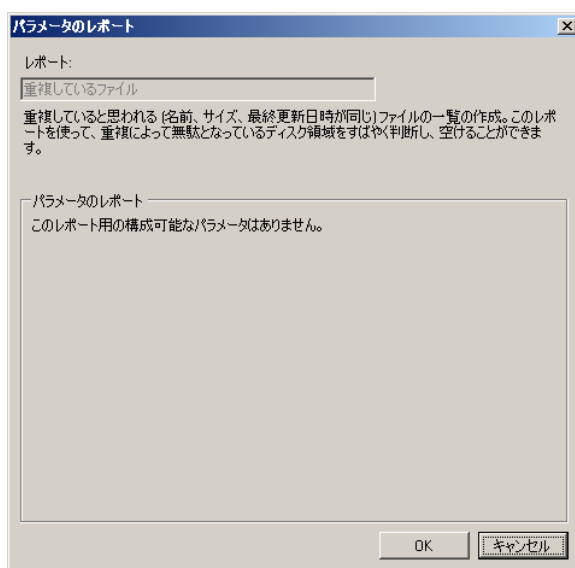
2-1-5.最近アクセスしたファイルの設定パラメータを変更する場合、“最近アクセスしたファイル”を選択後、[パラメータの編集]ボタンをクリックし[パラメータのレポート]画面を表示します。



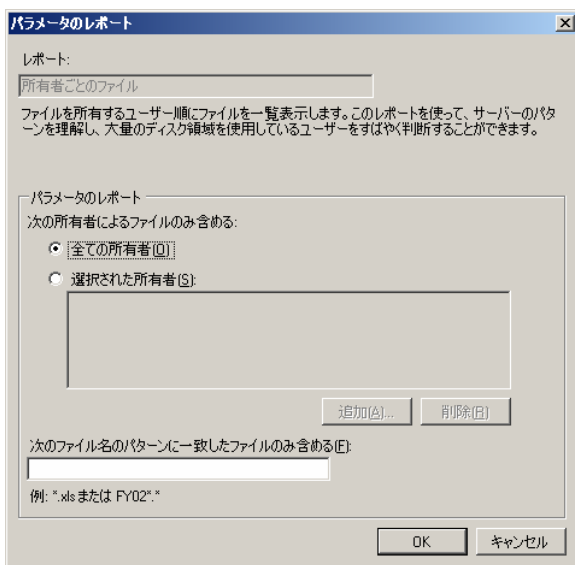
## ファイルサーバーリソースマネージャ

項目	説明
ファイルの最終アクセスから最大日数	レポートに含める、ファイルの最終アクセス日からの最大日数を指定します。
次のファイル名のパターンに一致したファイルのみ含める	対象とするファイルのパターンがあれば指定します。

2-1-6. 重複しているファイルの設定パラメータを変更する場合、“重複しているファイル”を選択後、[パラメータの編集]ボタンをクリックし[パラメータのレポート]画面を表示します。この項目にパラメータはありません。



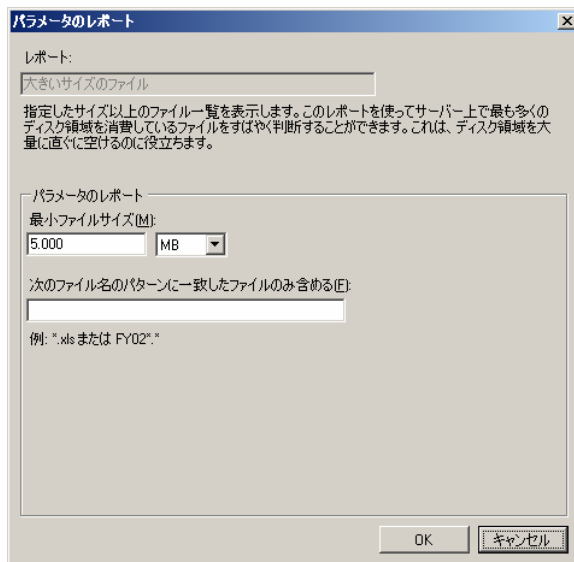
2-1-7. 所有者ごとのファイルの設定パラメータを変更する場合、“所有者ごとのファイル”を選択後、[パラメータの編集]ボタンをクリックし[パラメータのレポート]画面を表示します。



## ファイルサーバーリソースマネージャ

項目	説明
次の所有者によるファイルのみ含める	[全ての所有者]もしくは[選択された所有者]のどちらかを選択します。
選択された所有者	[追加]ボタンで対象ユーザーを追加、[削除]ボタンで対象ユーザーを削除します。
次のファイル名のパターンに一致したファイルのみ含める	対象とするファイルのパターンがあれば指定します。

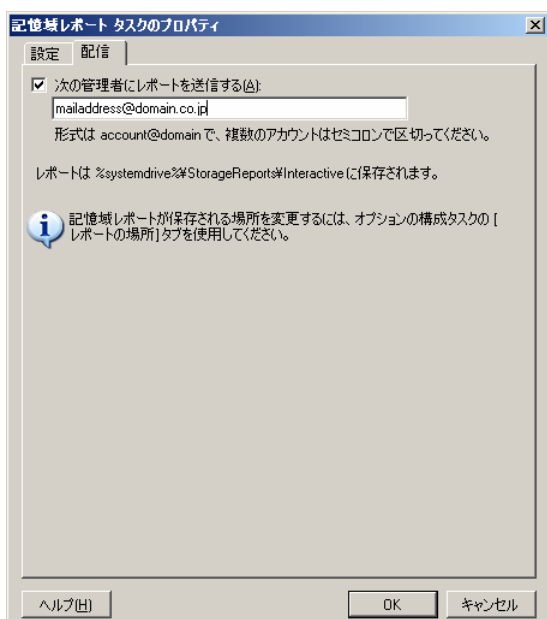
2-1-8. 大きいサイズのファイルの設定パラメータを変更する場合、“大きいサイズのファイル”を選択後、[パラメータの編集]ボタンをクリックし[パラメータのレポート]画面を表示します。



項目	説明
最小ファイルサイズ	レポートの対象とする最小のファイルサイズを指定します。
次のファイル名のパターンに一致したファイルのみ含める	対象とするファイルのパターンがあれば指定します。



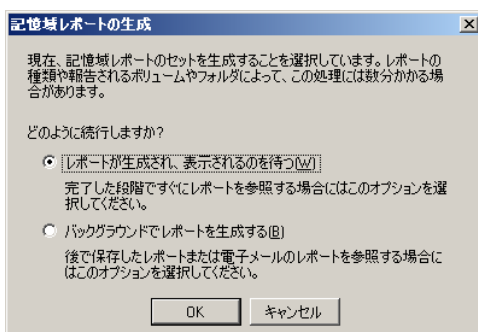
2-2. [配信]項目で電子メールにて管理者へレポートを送信する場合の電子メールアドレスを設定します。



項目	説明
次の管理者にレポートを送信する	管理者に電子メールでレポートを送信する場合に設定します。その場合、配下の入力フィールドにメールアドレスを設定します。

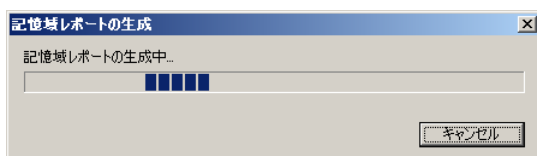
2-3. 設定完了後、[OK]ボタンをクリックします。

2-3-1. [記憶域レポートの生成]画面を表示されますので、表示方法を[レポートが生成され、表示されるのを待つ]もしくは[バックグラウンドでレポートを生成する]から選択します。



項目	説明
レポートが生成され、表示されるのを待つ	レポートを生成し、表示されます。レポート内容により時間が掛かる場合があります。
バックグラウンドでレポートを生成する	バックグラウンドでレポートを生成します。レポートは <b>6.1.1.3 レポートの場所</b> にて指定したフォルダ内に作成されます。

- 2-3-2. 設定完了後、[OK]ボタンをクリックすると、表示方法に合わせレポートが作成されます。なお、表示方法を[レポートが生成され、表示されるのを待つ]を選択し、表示に時間を要する場合は、以下のインジケータが表示されます。



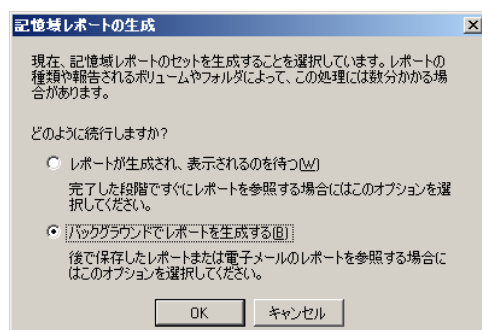
#### 6.4.1.4 更新

1. Windows Storage Server Management から[ファイルサーバーの管理]→[ファイルサーバーリソースマネージャ]→[記憶域レポートの管理]をクリックします。
2. 操作の一覧で[更新] をクリックします。

#### 6.4.1.5 レポートタスクを今すぐ実行

選択中の記憶域レポートタスクを即実行するには、次の操作を行ないます。

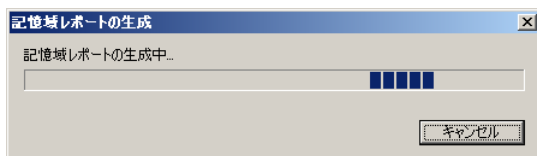
1. Windows Storage Server Management から[ファイルサーバーの管理]→[ファイルサーバーリソースマネージャ]→[記憶域レポートの管理]をクリックします。
2. 操作の一覧で[レポートタスクを今すぐ実行] をクリックし[記憶域レポートの生成]画面を表示します。



項目	説明
レポートが生成され、表示されるのを待つ	レポートを生成し、表示されます。レポート内容により時間が掛かる場合があります。
バックグラウンドでレポートを生成する	バックグラウンドでレポートを生成します。レポートは <b>6.1.1.3 レポートの場所</b> にて指定したフォルダ内に作成されます。

3. 表示方法を[レポートが生成され、表示されるのを待つ]もしくは[バックグラウンドでレポートを生成する]から選択します。

4. 設定完了後、[OK]ボタンをクリックすると、表示方法に合わせレポートが作成されます。なお、表示方法を[レポートが生成され、表示されるのを待つ]を選択し、表示に時間を要する場合は、以下のインジケータが表示されます。



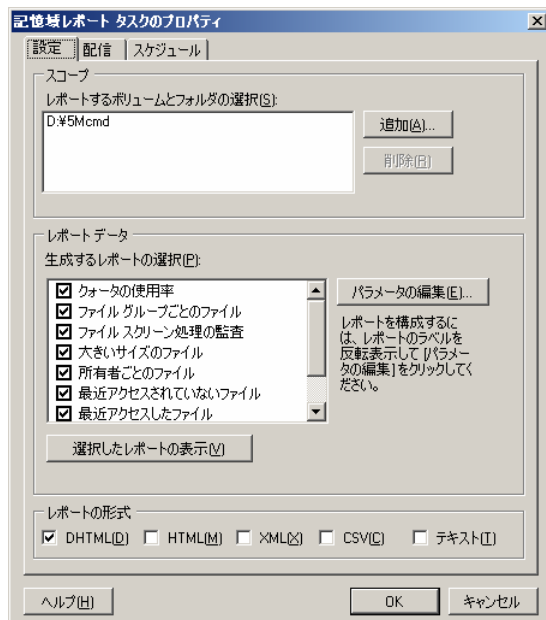
#### 6.4.1.6 レポートタスクの取り消し

1. Windows Storage Server Management から[ファイルサーバーの管理]→[ファイルサーバーリソースマネージャ]→[記憶域レポートの管理]をクリックします。
2. 操作の一覧で[レポートタスクの取り消し] をクリックします。

#### 6.4.1.7 レポートタスクのプロパティの表示と変更

選択中の記憶域レポートタスクを変更するには、次の操作を行ないます。

1. Windows Storage Server Management から[ファイルサーバーの管理]→[ファイルサーバーリソースマネージャ]→[記憶域レポートの管理]をクリックします。
2. 操作の一覧で[レポートタスクのプロパティの表示と変更] をクリックします。



項目	説明
レポートするボリュームとフォルダの選択	レポート対象とするフォルダを設定します。
[生成するレポートの選択]画面	各レポートが表示されます。

項 目	説 明
[パラメータの編集]ボタン	[生成するレポートの選択]画面で指定したレポートのパラメータ編集画面が表示されます。
[選択したレポートの表示]ボタン	設定したレポートの内容が表示されます。
レポートの形式	レポートのファイル形式を指定します。

3. 選択した記憶域レポートタスクの設定内容を変更し[OK]ボタンをクリックします。

#### 6.4.1.8 レポートタスクの削除

1. Windows Storage Server Management から[ファイルサーバーの管理]→[ファイルサーバーリソースマネージャ]→[記憶域レポートの管理]をクリックします。
2. 操作の一覧で[レポートタスクの削除] をクリックします。

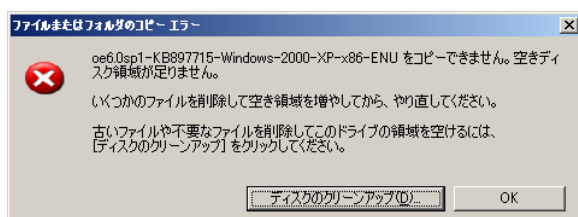
#### 6.4.2 コマンド情報

コマンドラインを使用して記憶域レポートの設定を行なう場合は、**StorRept** コマンドを使用します。  
詳細は、**StorRept /?** を実行してヘルプを参照してください。

## 6.5 ファイルサーバーリソースマネージャに関する注意事項

- クォータのハードクォータで制限以上のデータを書き込んだ際、クライアントでは以下のようなメッセージが表示されます。

ファイルの削除や、ディスクのクリーンアップを行なう必要はありません。



- ファイルスクリーンのアクティブスクリーンで制限したファイルを書き込んだ際、クライアントでは以下のようなメッセージが表示されます。



- 設定画面のうち、別の画面へフォーカスを移動可能な画面(モードレスダイアログ)を表示した状態で、[更新]で最新状態への画面更新を行うと、バックグラウンドで同内容の画面が表示されます。この場合、複数表示された画面のうち、不要な画面は[キャンセル]ボタンで画面を閉じてください。